

令和5年度

業務報告書

大田市総合的な人口減少対策事業
少子化対策に係る調査研究等業務

【概要版】

令和6年3月

島根県大田市

一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所

目次

第1章 全体概要編	1
第2章 人口に関する分析結果	2
I 大田市全体の人口動態.....	2
II まちづくりセンター単位編	7
III 産業別人口の分析結果.....	11
第3章 各種調査分析結果.....	13
I アンケート調査結果	13
II ヒアリング調査結果	25
III 他自治体現状分析.....	28
IV 現行施策の効果検証と要因分析	30
V 【追加調査】世代をつなぎ、今後のより良い地域づくりに向けた一歩を踏み出すための条件整理（世代別期待・求められる行動について）	31
第4章 人口減少対策に関する施策の検討.....	32
I 戦略の策定	32
II 既存施策のスクラップ&ビルドの検討、提言	34
III 具体的な施策検討・提言	36
第5章 各種協議について.....	39
I 調査検討委員会	39
II 庁内連絡会議.....	40
第6章 議員・職員研修及び市民フォーラムについて	41
I 研修会.....	41
II 市民フォーラム（大田市未来展望フォーラム）	42
第7章 政策提言.....	45
I 地域診断に関する具体提案	45
II 持続可能な大田市の実現に向けた具体提案.....	46

第1章 全体概要編

(1) 業務目的

全国的な人口減少が進む中で、大田市においても人口減少は喫緊の課題となっている。

本業務においては、その対策を検討するもので、「移住・定住促進」「結婚支援」「子育て支援」「少子化対策」など、関連するあらゆる施策の現況と社会情勢を整理して、効果的な施策実施につなげることを目的とする。

(2) 業務内容

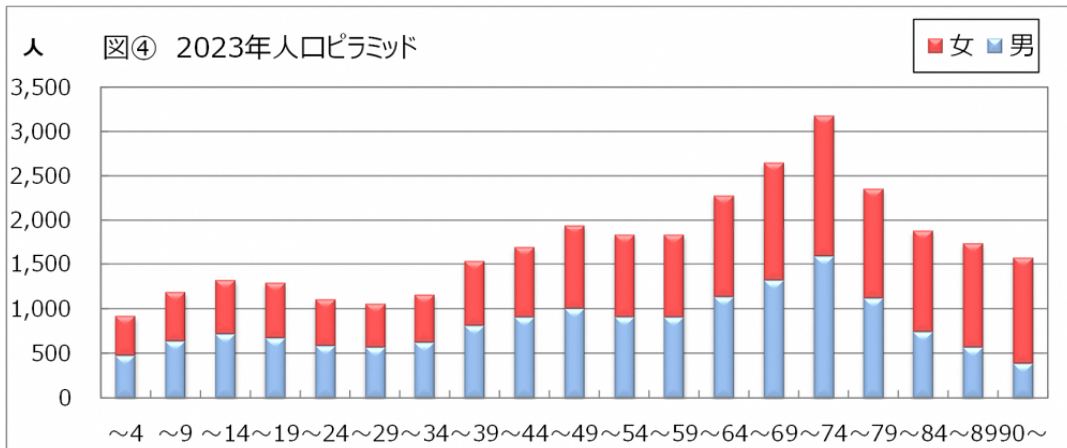
(1) 情報収集、現況整理
<ul style="list-style-type: none">・大田市全体及び27地区の人口分析を実施。・モデル地区は池田地区と大森地区を選定し、地元関係図作成等を実施。・産業別人口の分析実施。・各施策の状況整理のため、各所管課を対象にヒアリングを実施。・現場での課題を把握するため、各分野の実践者を対象にヒアリングを実施。・人口減少対策に関する他自治体の取組を参考にするため、県内15市町及び類似自治体として兵庫県明石市、大分県豊後高田市の取組事例を調査。
(2) アンケート調査の実施
<ul style="list-style-type: none">・大田市民18歳～45歳を対象にアンケート調査を実施。回答者属性に分けて詳細に分析するため、全4種類のアンケート調査票を配布し分析・調査実施・中高生アンケート調査を実施。
(3) 現行施策の効果検証と要因分析
<ul style="list-style-type: none">・人口減少対策に関係すると考えられる大田市の31事業の取組状況等を把握。
(4) 対策の検討、提言
<ul style="list-style-type: none">・人口減少に対する今後の戦略を提案。・既存施策のスクラップ&ビルドの検討、提言につなげるため、行政施策天気図ワークショップを実施。・人口減少に対して今後の取組の参考となる全70のアクションプランの種及び4つの具体アクションプランを提言。
(5) 庁内検討会議、検討委員会の支援
<ul style="list-style-type: none">・庁内連絡会議を計8回開催。・調査検討委員会を計5回開催。・合同会議（庁内連絡会議と調査検討委員会の合同開催）を計5回開催。
(6) 研修会、フォーラム等の開催
<ul style="list-style-type: none">・市職員向けの研修会を1回開催。・市議会議員向けの研修会を1回開催。・市民フォーラム（大田市未来展望フォーラム）を1回開催。

第2章 人口に関する分析結果

I 大田市全体の人口動態

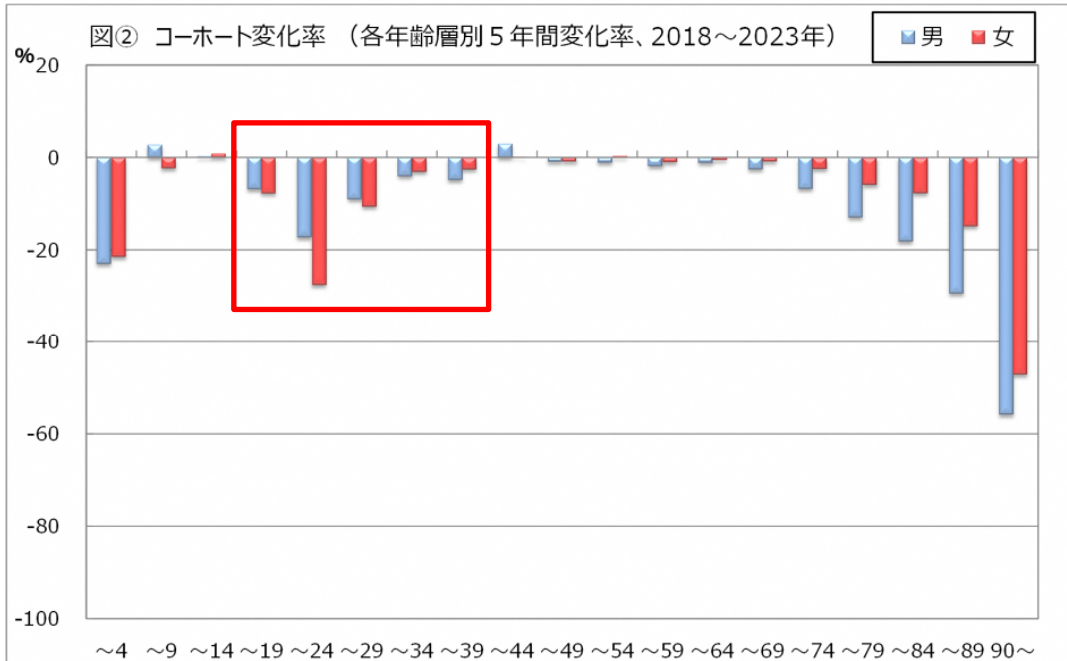
1. 現状分析（2018～2023年）

（1）年代別人口構成グラフ



60代後半～70代前半を中心にピークがあり、現在の地域を担っている主力人材もここに集中していることが予測される。そのため、現在の70歳前半が元気なうちに、次世代の地域を担う人材の確保と継承という観点から、今後5～10年間で次世代定住が急務となる。

（2）男女年代別コーホート変化率



5～9歳男性、10代後半女性、40代前半男性ではわずかに流入超過が見られるが、全体的にはほとんどの世代で減少傾向となっている。

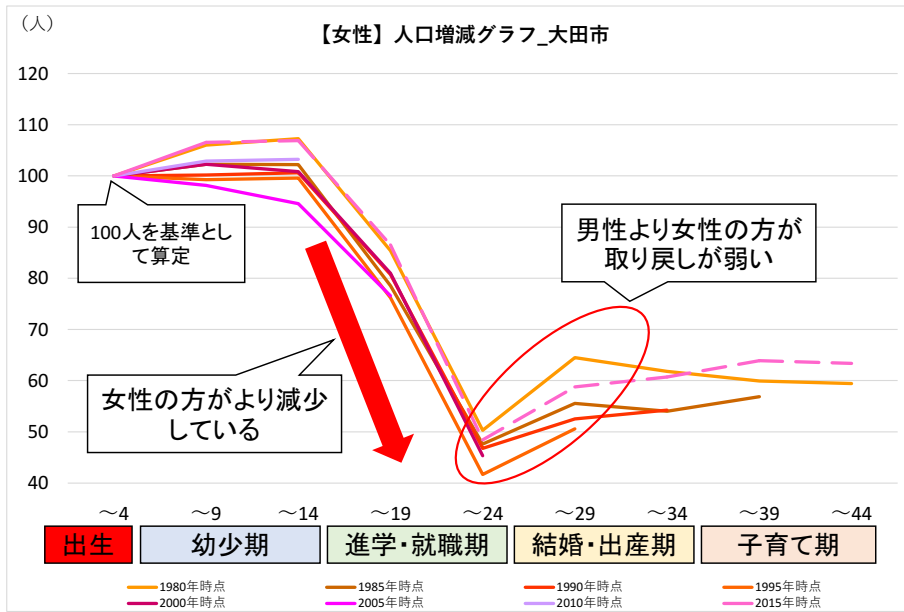
注視されるのが、20代～30代の子育て世代の大幅な流出超過と、4歳以下幼児の大

幅な減少である。流出は高校入学時世代を中心に始まっており、流出した人口はほとんど地元には戻らず、その後も30代世代まで流出傾向が続いている。

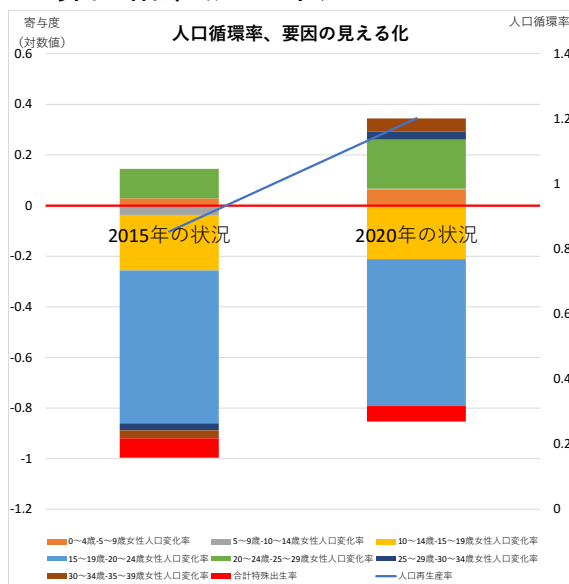
また、特に懸念されるのは20～39歳の子育て世代において、総じて男性より女性の方が多く流出していることである。結婚・出産年齢女性の大幅な流出超過が、更なる少子化を呼ぶといった悪循環が始まることが懸念される。

この10代後半～20代前半の若者の流出と20代～30代のUターン・Iターン者が少ないことが、実は大田市における人口減少の要因となっている。また、このことは定量的な分析によっても明らかとなっている。

■大田市におけるこれまでの人口増減数【女性】(国勢調査より)



■算出結果(大田市)



大田市における人口再生産率については、2015年は**0.85**、2020年は**1.20**となっており改善はしているが、人口が置換可能な水準である「2」には到達していない。

最もマイナスに寄与しているのは、**15～19歳-20～24歳女性人口変化率**である。

つまり、出産期以前における流出超過の累積が少子化・人口減少の一番の要因となっている。

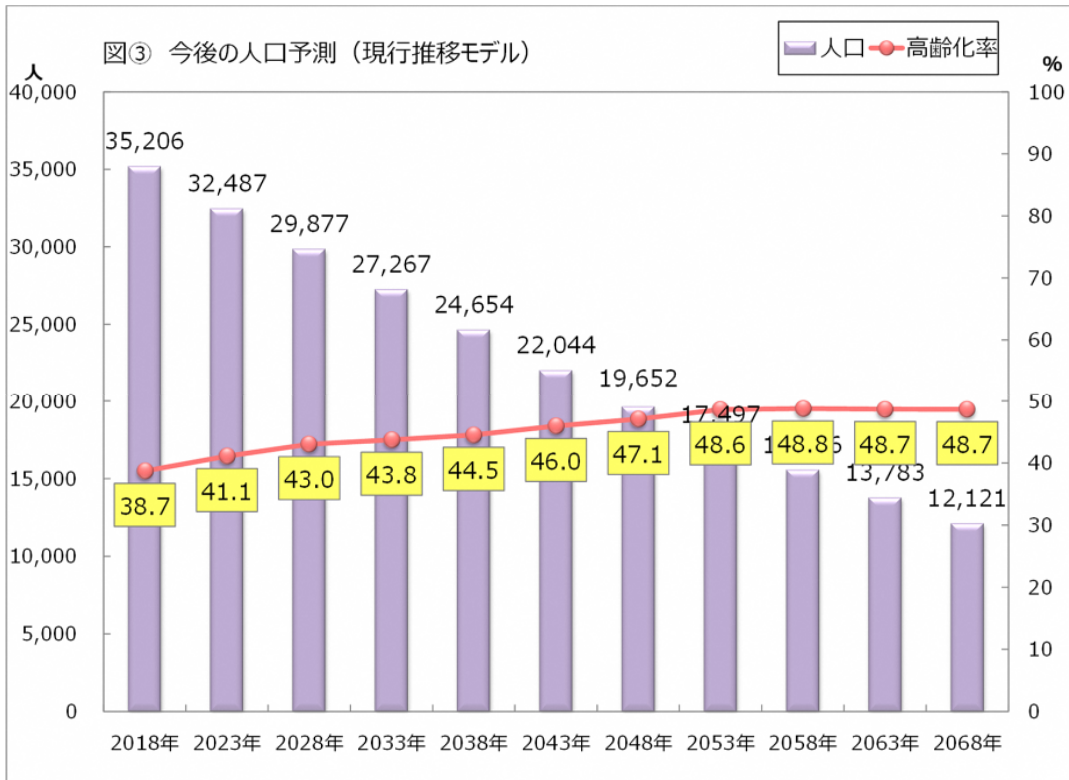
※対数変換による数値のプラスマイナスを表現するため、ここでの合計特殊出生率は、子ども女性比に2を掛けた数字としている。

データの諸元	人口再生産率	0～4歳-5～9歳女性人口変化率	5～9歳-10～14歳女性人口変化率	10～14歳-15～19歳女性人口変化率	15～19歳-20～24歳女性人口変化率	20～24歳-25～29歳女性人口変化率	25～29歳-30～34歳女性人口変化率	30～34歳-35～39歳女性人口変化率	合計特殊出生率
2015	0.853507453	0.028529146	-0.03712052	-0.21916398	-0.60381849	0.116146141	-0.02787492	-0.0313462	-0.07689936
2020	1.201736431	0.063397245	0.003125112	-0.2113138	-0.58053304	0.194159544	0.032205781	0.051158785	-0.061517

2. 現状推移シナリオ

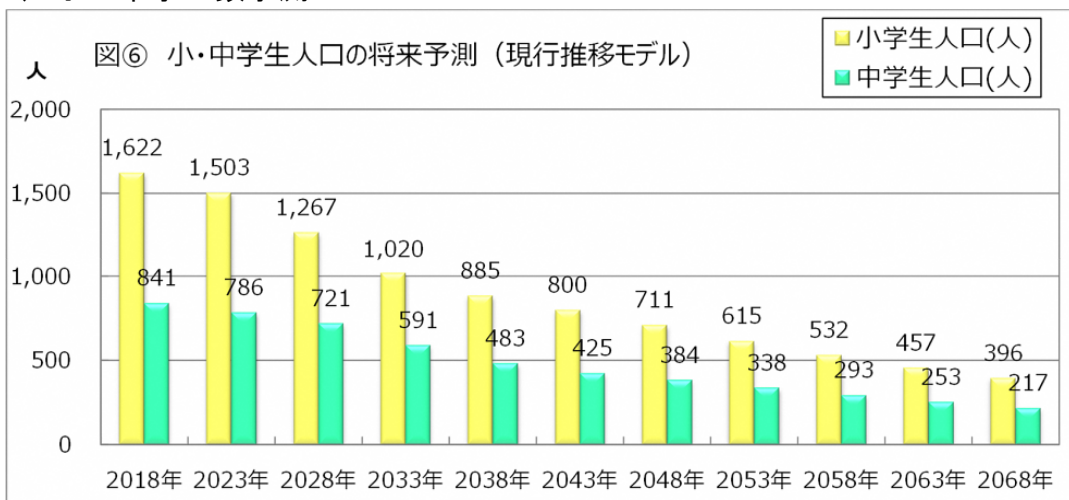
過去5年間（2018～2023年間）の人口動態が今後も続いた場合の人口推移を検討していく。

(1) 人口と高齢化率予測



高齢者の自然減少と若年層（特に20～39歳）を中心に人口減少が進み、人口総数は右肩下がりとなる。高齢者の減少以上に若年層の流出が大きいため、高齢化率は右肩上がりとなり、人口の下げ止まりが見えない状態となる。

(2) 小・中学生数予測

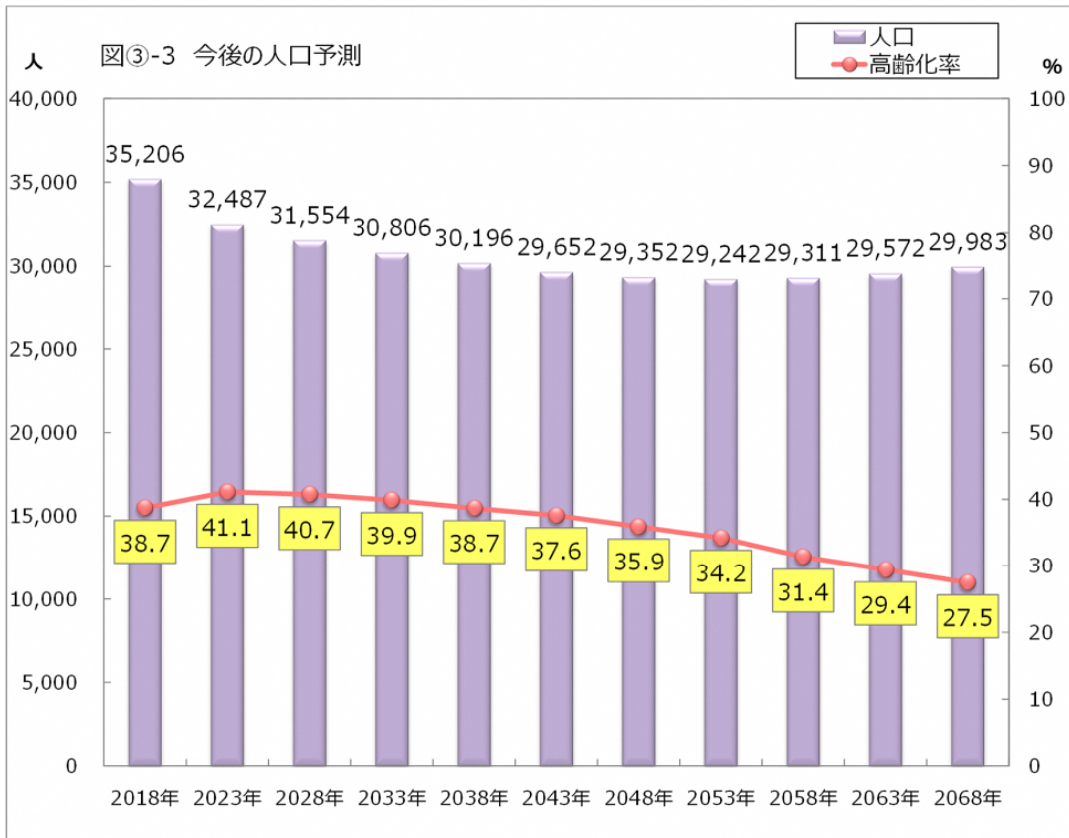


小・中学生も人口総数と同じく右肩下がりとなり、20年後には半減近くまで減少する。これは子育て世代（20代～30代）の流出率の悪化による影響が大きい。

3. 組み合わせ最適シナリオ

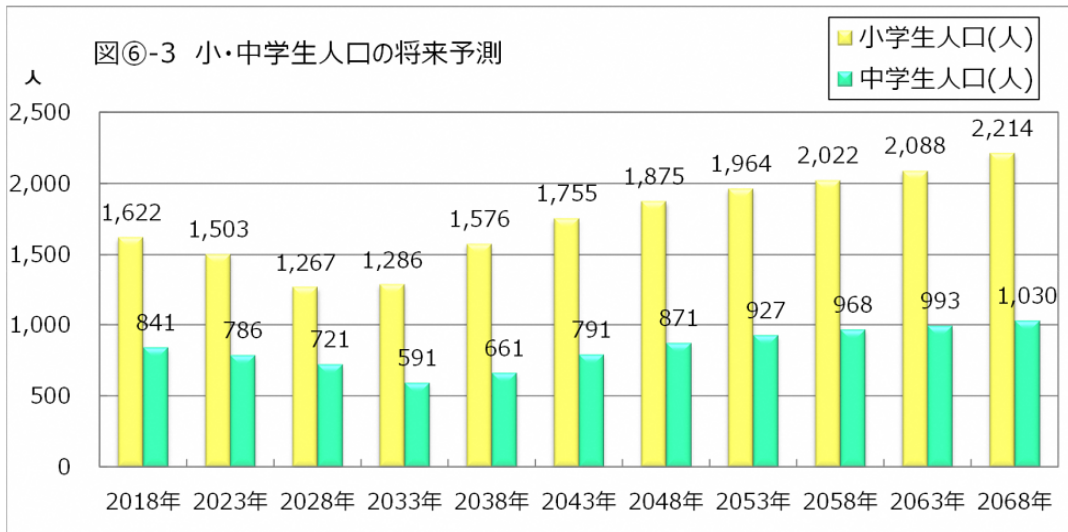
組み合わせ最適シナリオとしては【出生率・流出率・定住増加】という3つパラメータを組み合わせた目標が最適であると考えます。まずは、【出生率・10代後半の流出率】を改善させ、その上で、過去の若年層の人口流出を補うように3世代バランスのとれた定住増加させるというのが望ましい。

(1) 人口と高齢化予測



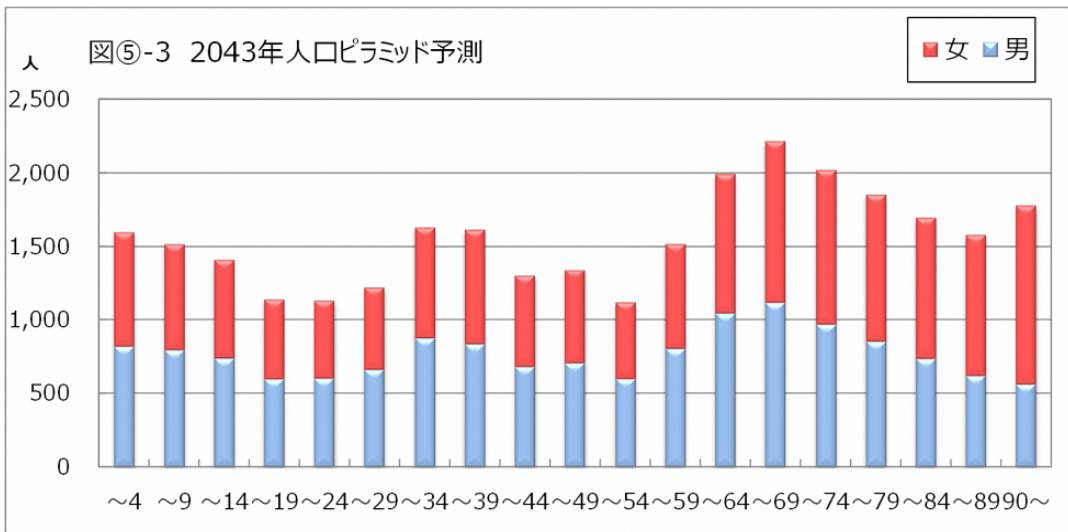
人口総数、高齢化率とも、長期にわたる安定化が達成される。

(2) 小・中学生数予測



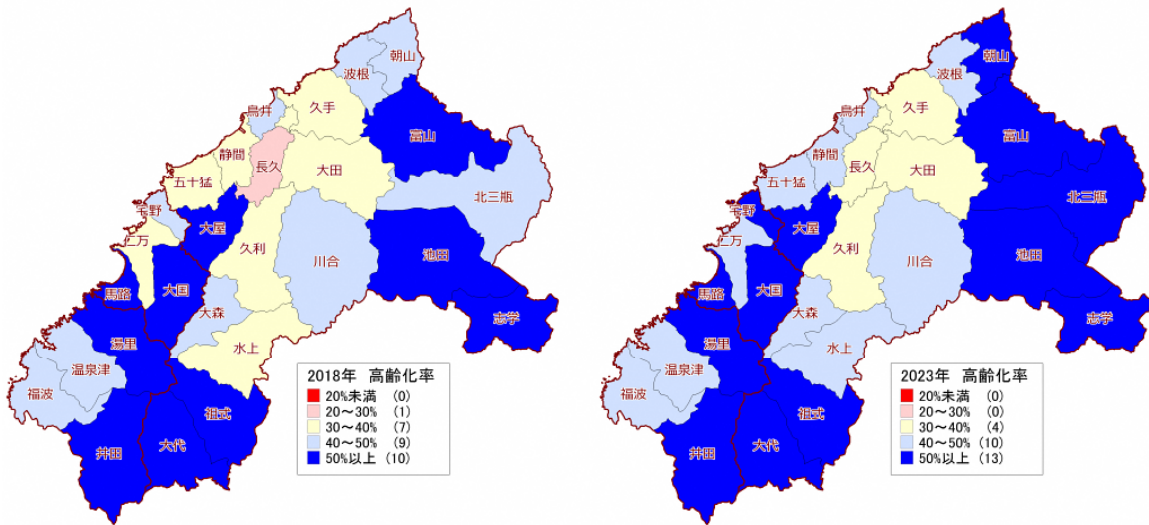
小・中学生数においては、2028年頃までは減少傾向にあるものの、その後は増加傾向にあり安定化が達成される。

(3) 20年後の年代別人口構成グラフ



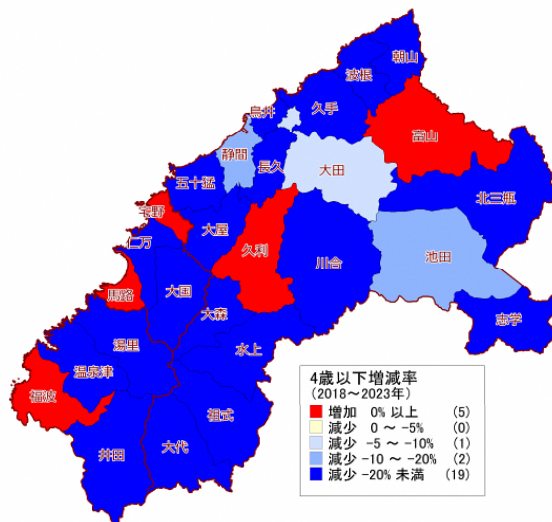
50代後半未満の人口の厚みが回復し、安定した人口の再生産が展望できる。

(2) 高齢化率



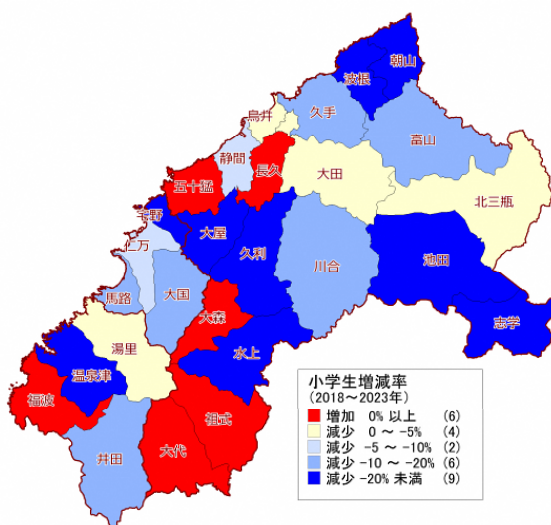
高齢化率は27分の26地域で上昇、市全体で約2.4%上昇しているが、高齢者数は27分の21地域で減少している。高齢者数の減少が始まっている地域では、高齢者人口のピーク又は、ピークを越えている可能性が高いことを意味し、自然減数が増えることで人口減少に拍車がかかると予測される。また、高齢者数が減少しているにもかかわらず高齢化率が上昇しているのは、高齢者の減少（主に自然減）以上に、若年層での流出が大きいためである。

(3) 4歳以下幼児数・増減率



市全体では過去5年間で約2.2割も減少しており、地域別に見ても、27分の22地域で減少している。一方で、久利地区、宅野地区及び馬路地区においては、わずかではあるが、増加している。

(4) 小学生数・増減率



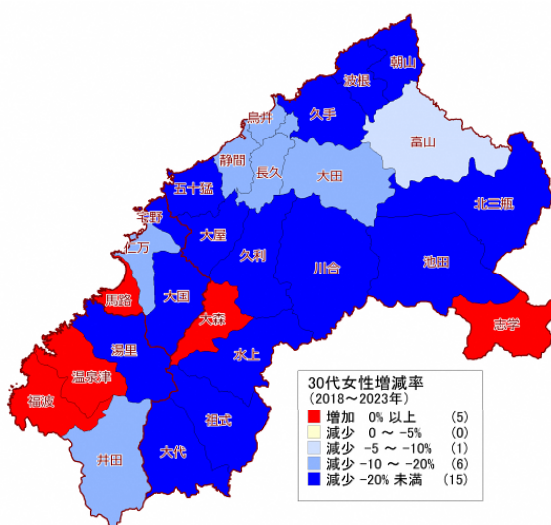
小学生人口全体は過去5年間で約0.7割も減少しているが、地域別に見ると27分の6地域（2018年小学生人口が0人の地域は除く）で維持・増加している。

これから小学生となる4歳以下幼児数が大幅な減少傾向にあることから、現状の推移が今後も続くと、小学生人口の減少に歯止めをかけることは難しい。

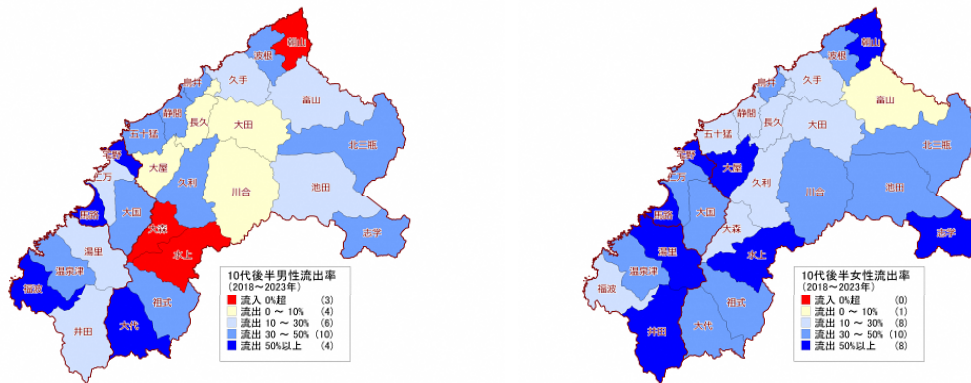
(5) 30代女性数・増減率

30代女性人口は過去5年間で約1.8割も減少しており、数にして27分の22地域（30代女性が0人だった地域は除く）で30代女性が減少している。

結婚・出産年齢女性の減少は今後の少子化に大きく影響してくるため、地域毎に取戻し対策を実施しつつ、30代女性全体としての取戻しを期待したい。

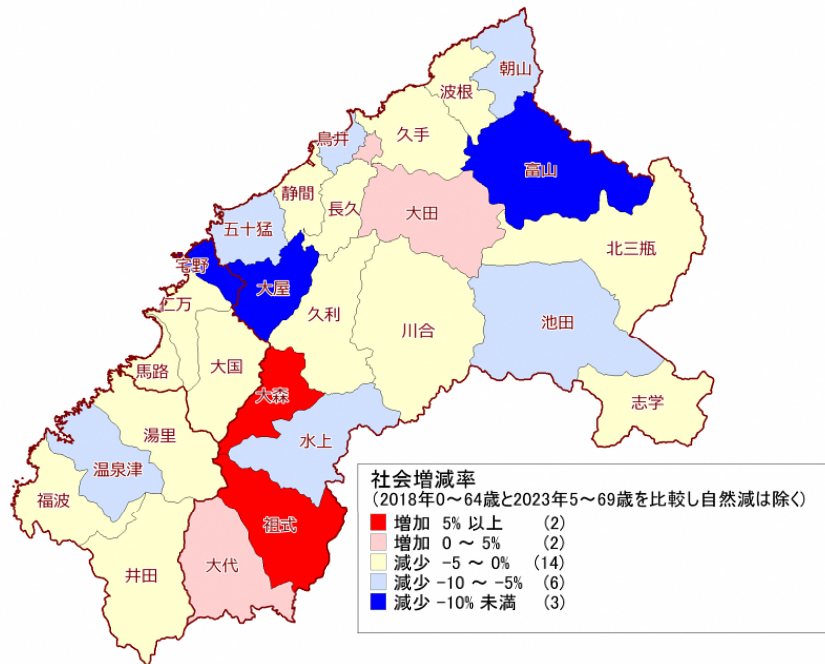


(6) 10代後半男女流出数・流出率



10代後半（主に高校卒業後）人口は、ほとんどの地域で流出超過していることが分かる。30代コーホート増減とは逆の傾向となっており、男性より女性の流出率の方が高い。

(7) 社会増減数・増減率



27分の23地域で社会減少しているという結果となった。社会増加している地域では4歳以下増加率、小学生増加率、出生率も高い傾向にあることから、子連れ世帯の影響が大きいと予測される。

Ⅲ 産業別人口の分析結果

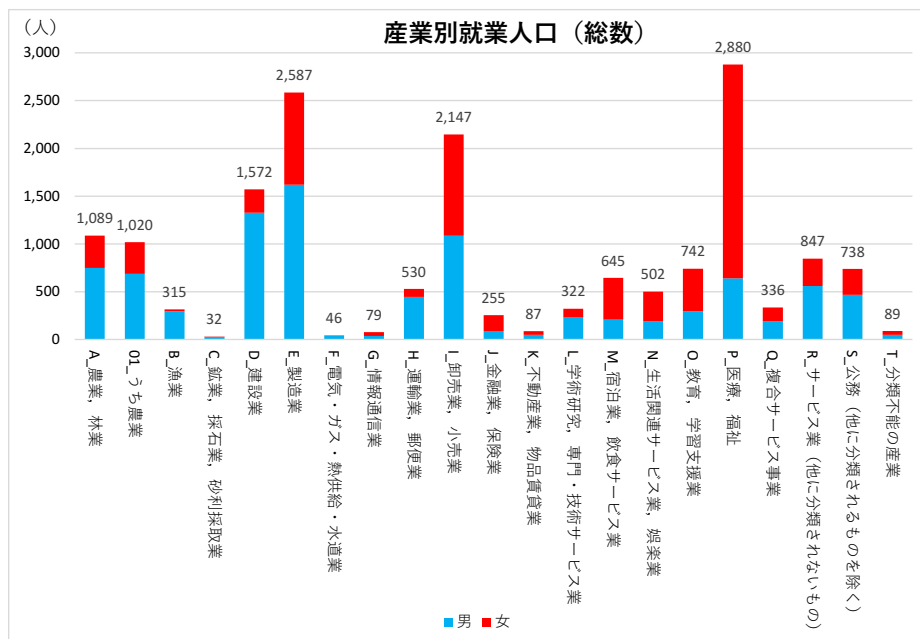
(1) 目的

産業別就業者の分析は、労働市場の動向を理解する上で重要である。これにより、人々がどの産業で働いているか、またどのような職業が選ばれているかが明らかとなる。この分析を通じて、職業選択の指標を提供し、地域経済の構造と労働市場の需給関係を把握することが目的である。

(1) 結果

ア) 全産業分類

大田市の雇用を支えている主要産業は、「農業」、「建設業」、「製造業」、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」、「公務」となっている。なお、就業者総数は、16,860 人となっている。

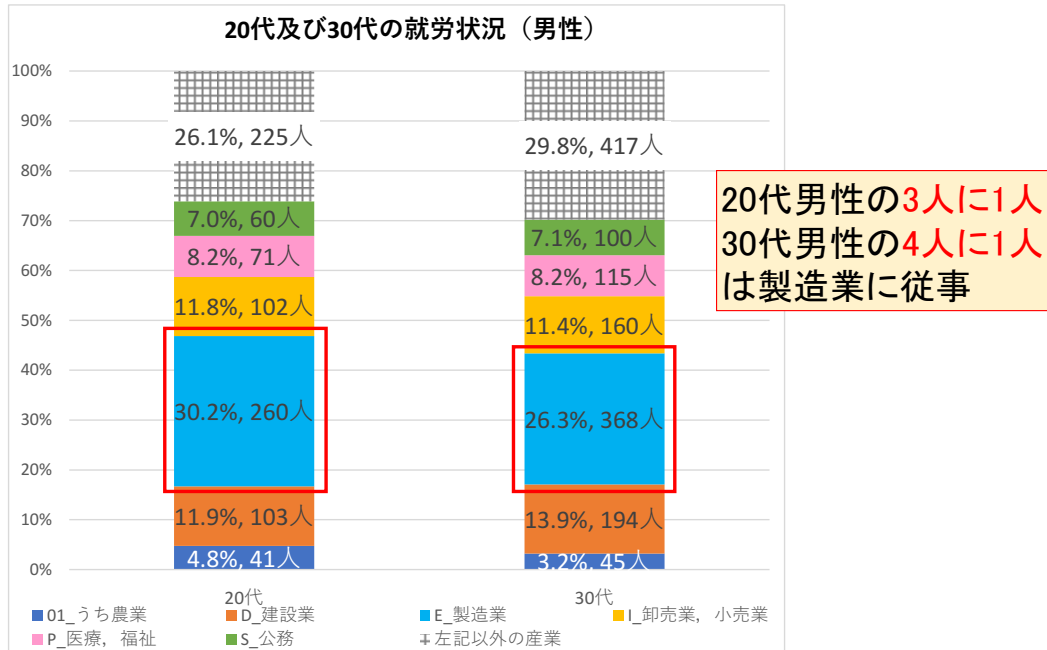


[産業別就業人口 (総数)]

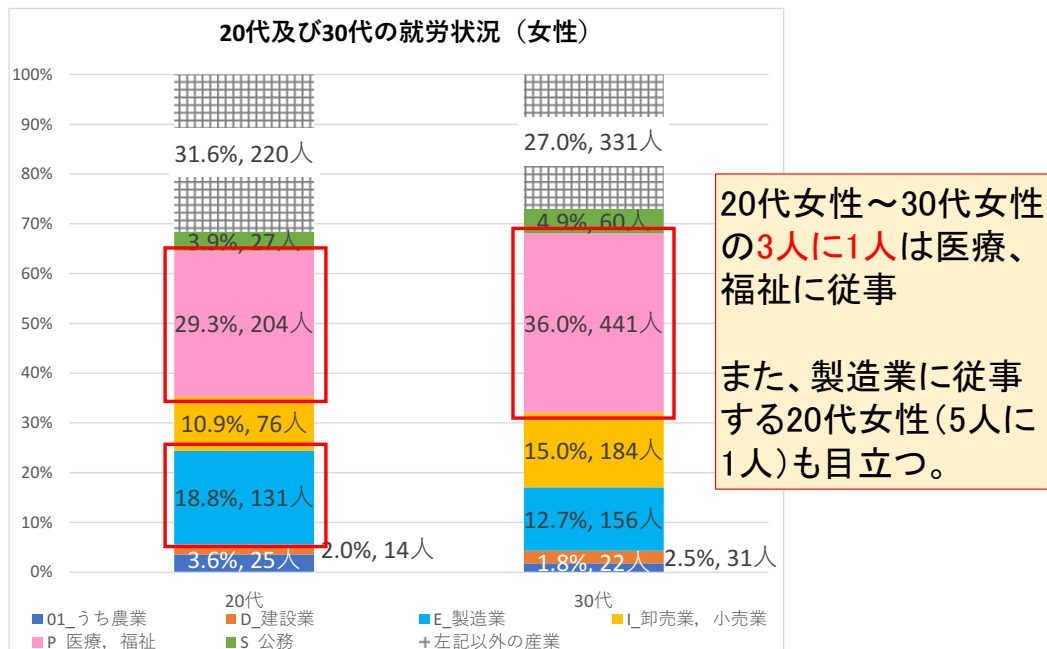
データ) 2020 年国勢調査

若者に絞って分析を行った結果、20代～30代男性の雇用を支えている産業は、「製造業」となっており、女性は、「医療、福祉」となっている。

[若年層の就労状況（大田市・男性）]



[若年層の就労状況（大田市・女性）]



第3章 各種調査分析結果

I アンケート調査結果

1. 市民アンケート調査概要





(1) 目的

独身世帯、婚姻世帯へのアンケート調査を実施し、実態やニーズ、活用できる市内資源等を洗い出す。併せて、若い世代の市外流出の要因等を分析するため、18歳以上45歳以下の若年層の意向調査を行う。

(2) 実施概要

- ・実施月：2023年7月～8月
- ・実施方法：しまね電子申請サービスによるオンラインのみでの回答受付
- ・調査対象：18歳以上45歳以下の市民6,964人
※ただしパートナーがいる世帯はどちらか片方のみ回答
- ・回収数：全959票

■調査票別回収数

	属性	本分析での表現	回収数(世帯)
A	パートナーあり、子どもあり	ふたり親(子あり)世帯	 377
B	パートナーあり、子どもなし	ふたり親(子なし)世帯	 84
C	パートナーなし、子どもあり	独身(子あり)世帯	 48
D	パートナーなし、子どもなし	独身(子なし)世帯	 450

[調査票別性別と年齢の内訳]

		調査票A		調査票B		調査票C	調査票D
		回答者	パートナー	回答者	パートナー		
男性	10代	0	0	0	0	0	30
	20代	16	29	12	17	0	76
	30代	73	87	14	10	0	80
	40代	55	98	12	11	7	44
	50代以上	0	11	0	2	0	0
女性	10代	1	0	0	0	0	43
	20代	36	20	15	13	2	99
	30代	94	82	11	13	27	46
	40代	95	41	14	9	11	26
	50代以上	0	0	0	2	0	0
回答しない	10代	0	0	0	0	0	1
	20代	1	1	1	1	0	3
	30代	2	1	0	0	0	1
	40代	2	3	2	2	1	1
	50代以上	0	0	0	0	0	0

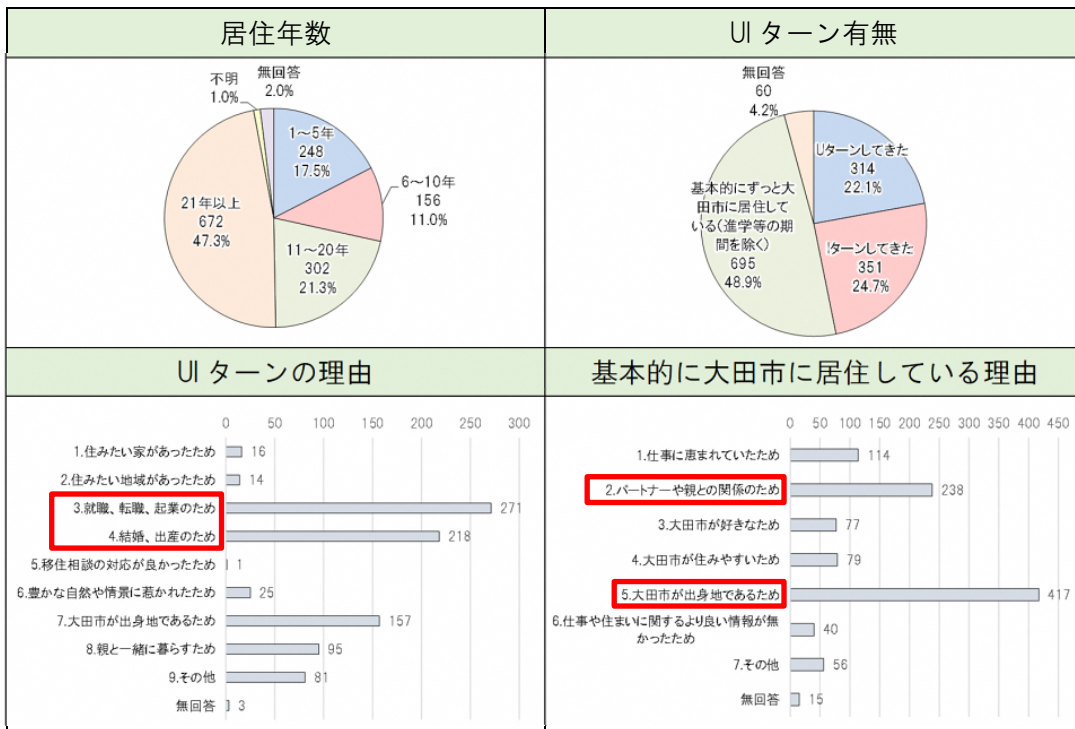
2. 市民アンケート調査結果

(1) 居住年数と UI ターン有無について

居住年数は21年以上が最も多く、次いで「11～20年」、「1～5年」となっている。

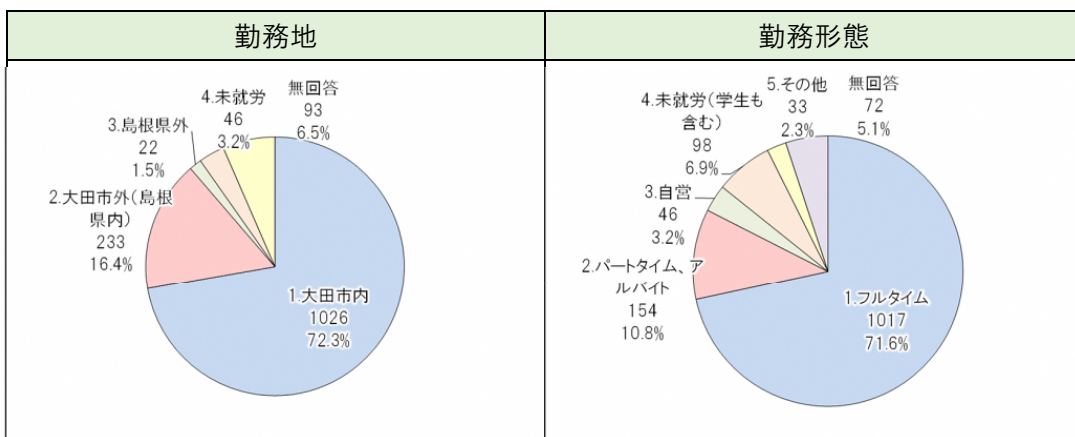
約5割近くがUIターンで大田市に来ている。なお、UIターン元としては、「出雲市」が最も多く、次いで「松江市」、「広島市」、「浜田市」となっている。

UIターンの理由としては、仕事や結婚を機に大田市に戻ってくるパターンが多い。また、基本的に大田市に居住している理由としては、大田市が出身地であることや家庭の都合であることが明らかとなっている。



(2) 勤務状況

勤務地として最も多いのは「大田市内」となっており、次いで「大田市外(島根県内)」となっている。勤務形態として最も多いのは「フルタイム」となっており、次いで「パートタイム、アルバイト」となっている。



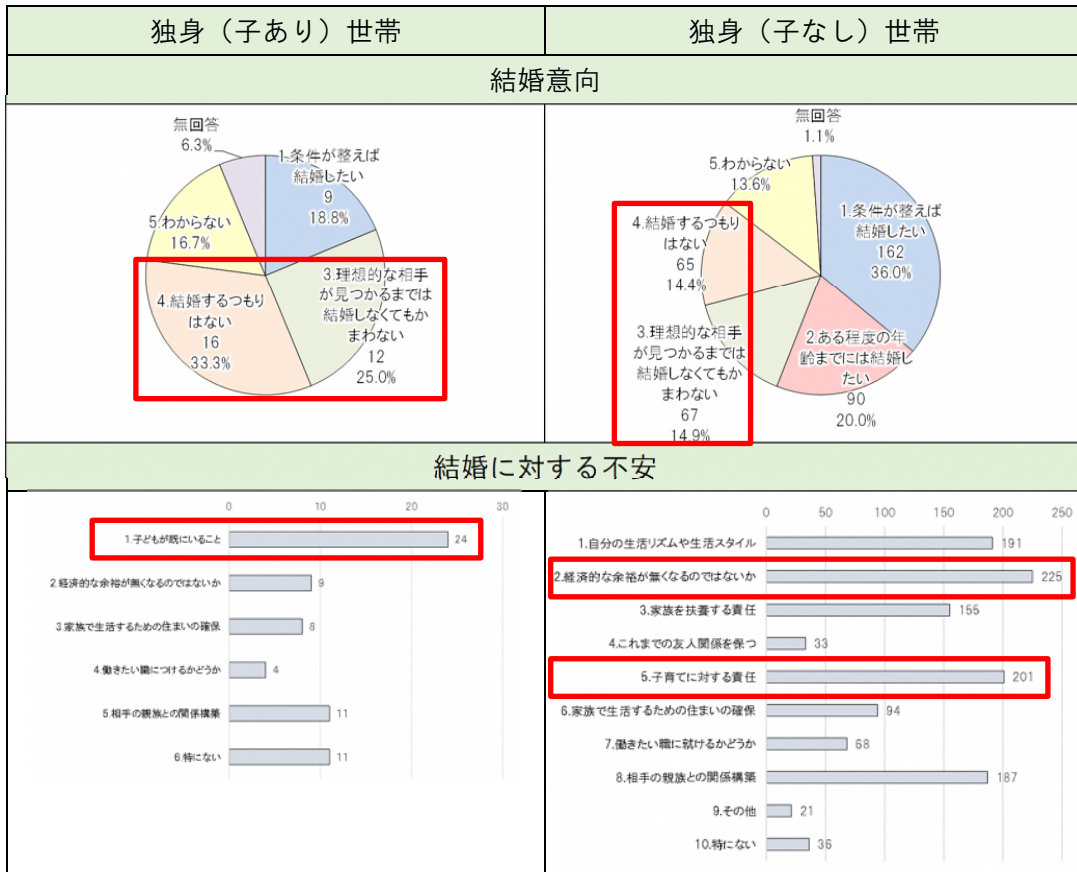
(3) 結婚の意向とその不安

ひとり親の約6割が結婚を考えていない。

一方で、独身者については、約3割は結婚に対して消極的である。

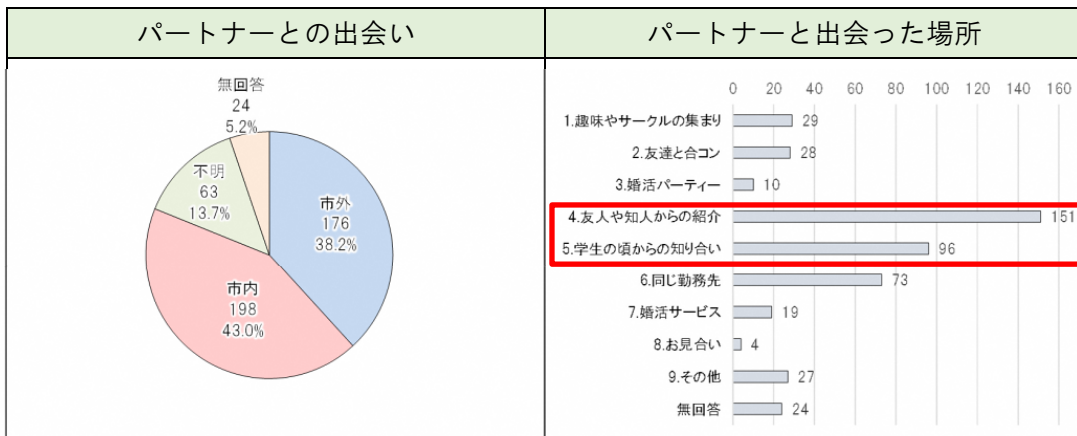
結婚に対する不安として、独身（子あり）世帯は「子どもが既にいる」が最も多い。

一方で、独身者については、経済的余裕に関することや子育てに対する責任がそれぞれ多くなっている。



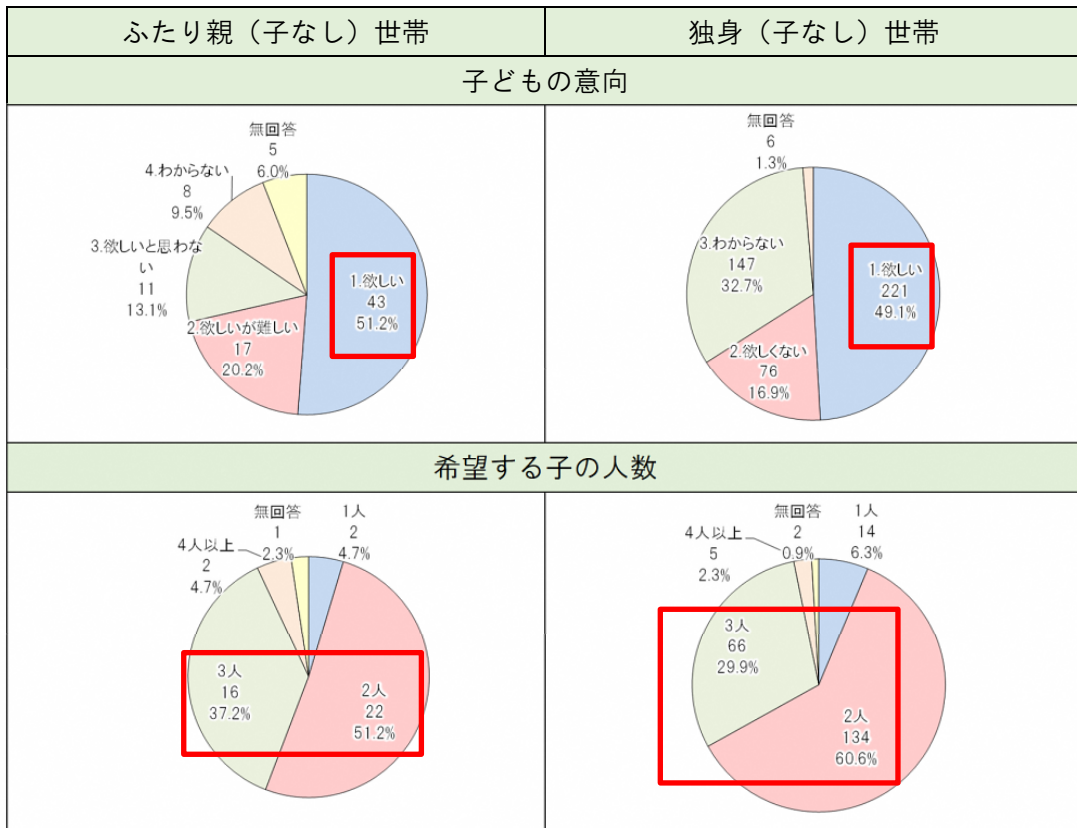
(4) パートナーとの出会い

パートナーとの出会いについて、「友人や知人からの紹介」「学生の頃からの知り合い」が多い一方で、婚活サービスの活用や婚活パーティー、お見合いなどの結婚活動の場での出会いは少ない。



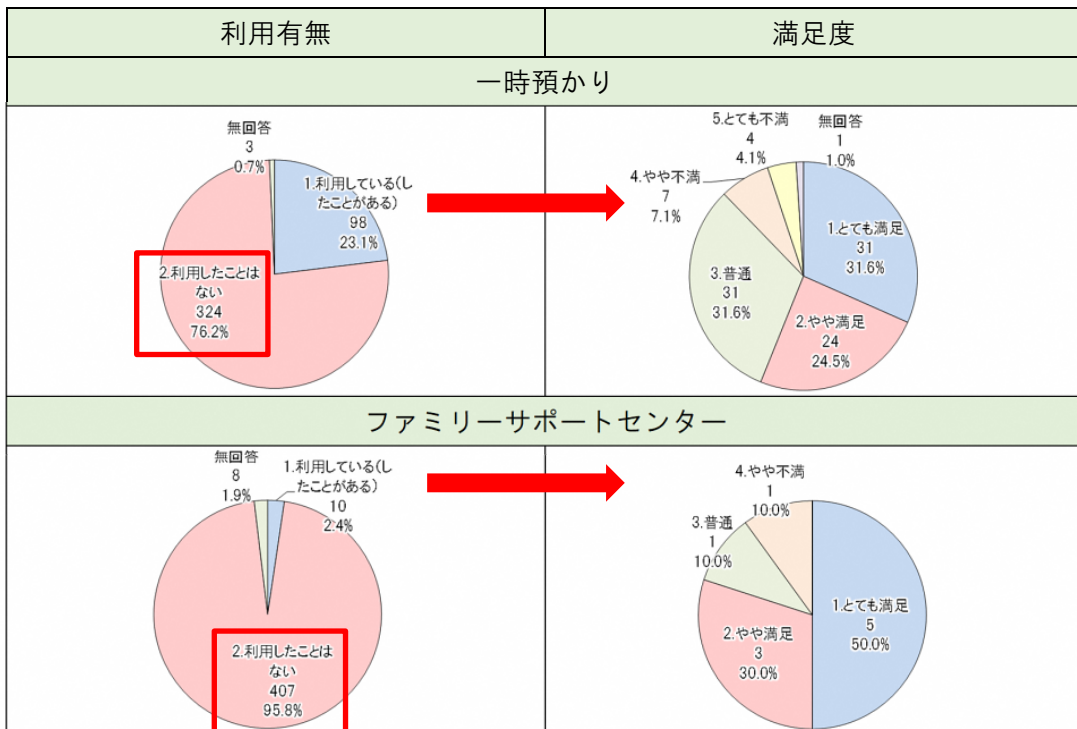
(5) 将来的な子どもの意向

子ども意向については、一人親、独身者とも約半数が欲しいと考えているなど傾向が近い。希望する子の人数についても、2～3人となっている。



(6) 公的な子育て援助について

利用したことのある人の満足度は概ね高いものの、そもそもサービスを利用したことがある人は少なく、利用のしづらさもしくは利用の周知に課題あると考えられる。

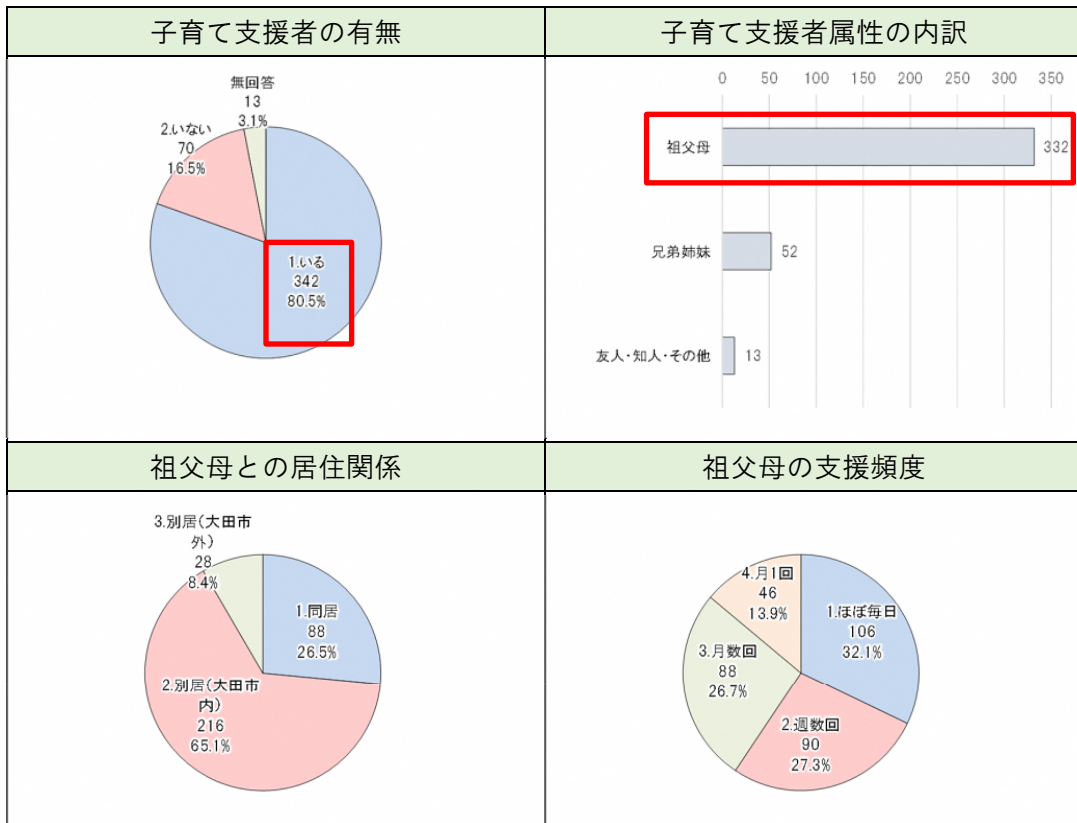


(7) 家族・友人による子育て援助について

ア) 月1回以上子育て支援する方の有無 (子あり世帯 n=425)

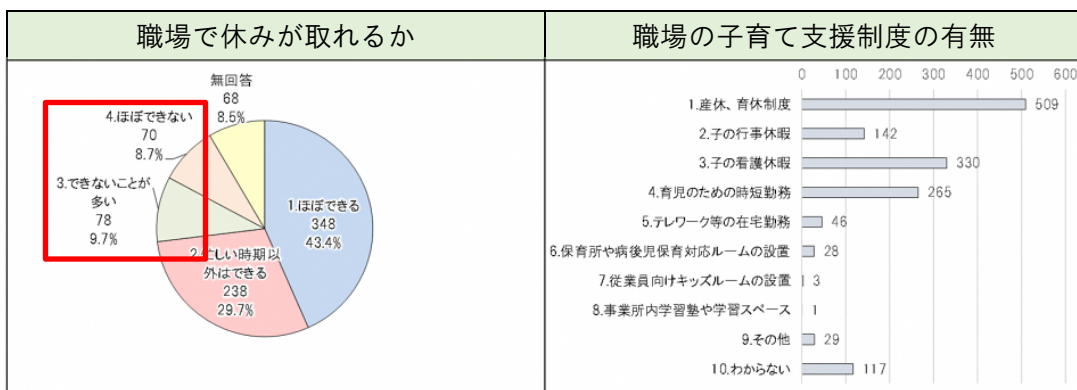
月1回以上子育て支援する方の有無について、いると回答した方は約8割となっており、そのほとんどは、祖父母からの支援となっている。

祖父母は子育てにおいて、頻度の多さ、内容の充実が見られることから、大変重要な役割を担っていることが分かる。また、居住関係が近いほど、より充実した支援が行われている。



(8) 子育てに関する職場の状況について

職場で休みが取れるかどうかについて、回答者の約7割は職場で休みが取れる状況であるが、残り3割は支援制度が十分ではなく、課題が残る。



(9) 子育て全般に関して

子育てをされていて困っていることとして最も多かったのは、「お子様と一緒に遊びに行ける場所がない(少ない)」であり、次いで「自分だけの時間が確保できない」、「お子様を同年代の子と遊ばせる機会がない(少ない)」となっている。

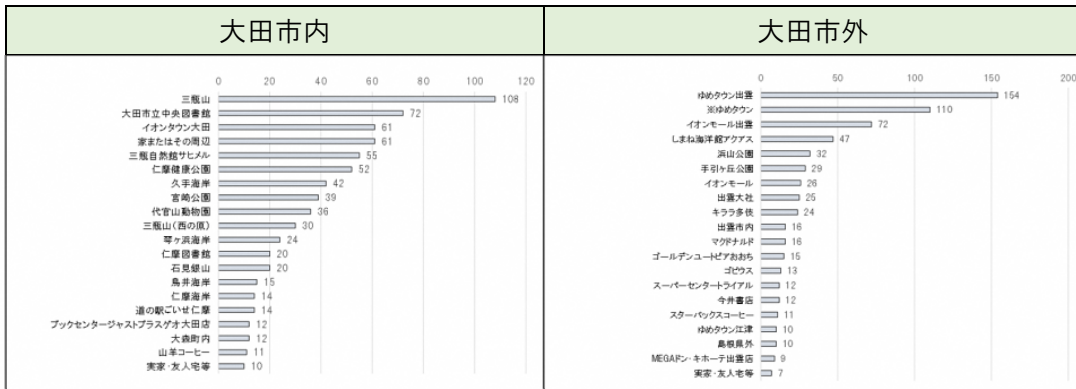
子育てに必要なこととして最も多かったのは、「お子様の就学にかかる費用が軽減される」であり、次いで「教育環境の充実」、「自然と触れ合う体験活動などお子様が勉強や部活以外で体験できる活動を充実させる」となっている。



(10) お気に入りの場所・行事・イベント

大田市内のお気に入りの場所として最も多かったのは「三瓶山」、次いで「大田市立中央図書館」、「イオンタウン大田」となっている。

大田市外のお気に入りの場所として最も多かったのは「ゆめタウン出雲」、次いで「イオンモール出雲」、「しまね海洋館アクアス」となっている。



(11) 大田市に対する全体的な評価

自然が豊かで治安が良いことに対する評価は高いが、買い物や公共交通、公共施設の充実が選ばれておらず、全体的に社会資本整備に対する満足度が低くなっている。

人口減少の要因として最も多かったのは、「働きたい職場が無い」となっており、次いで「娯楽施設が少ない」、「給与水準が低い」となっている。



3. 中学生・高校生アンケート調査概要

(1) 目的

大田市においては、中学生及び高校生の進学や就職をきっかけとした市外流出が見られている。そこで、その実態を把握するとともに、将来を担う若い世代の大田市に対する評価や期待を把握するため、中学生及び高校生を対象とした意識調査を行う。

(2) 中学生アンケート調査の実施概要

- ・実施月：2023年11月～12月
- ・実施方法：Google フォームによるオンラインでの回答受付
- ・調査対象：各中学校の2年生 266名
- ・回収数：206票
- ・回収率：77.4%

※学校側の意向により、所属学校を問う設問は設けていない。

(3) 高校生アンケート調査の実施概要

- ・実施月：2023年10月
- ・実施方法：Google フォームによるオンラインでの回答受付
- ・調査対象：各高校の2年生 202名
- ・回収数：190票
- ・回収率：94.1%

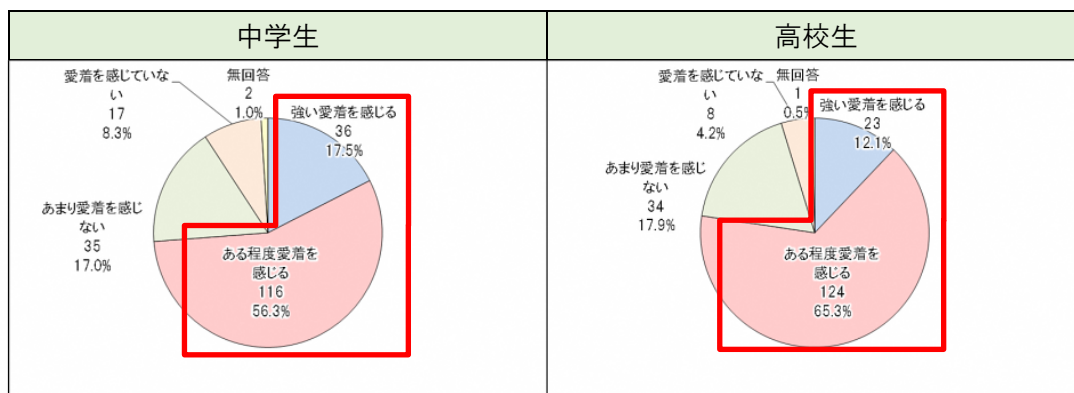
[学校別回収数]

学校名	対象数	回数数
大田高等学校	125	122
邇摩高等学校	76	65
出雲養護学校邇摩分教室	1	1
無回答	—	2
合計	202	190

4. 中学生・高校生アンケート調査結果

(1) 大田市への愛着

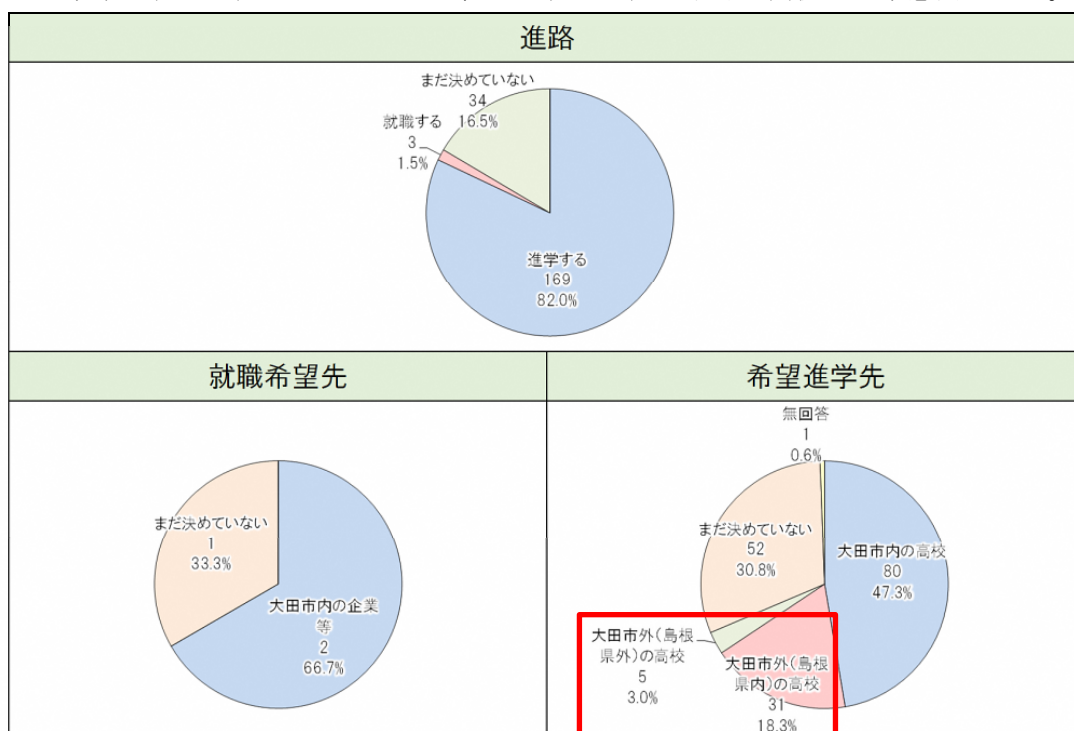
中学生と高校生ともに、約7割が大田市への愛着を持っている。



(2) 卒業後の進路、就職先について

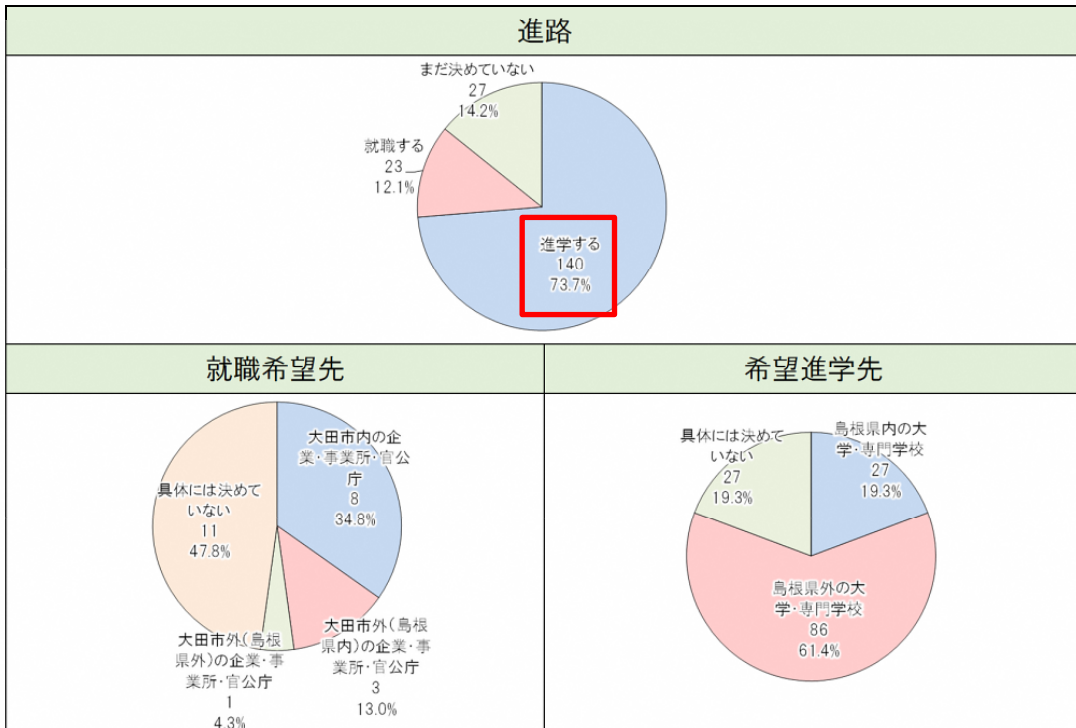
ア) 中学生

進学希望者は8割となっているが、そのうち2割は市外の高校に進学意向がある。



イ) 高校生

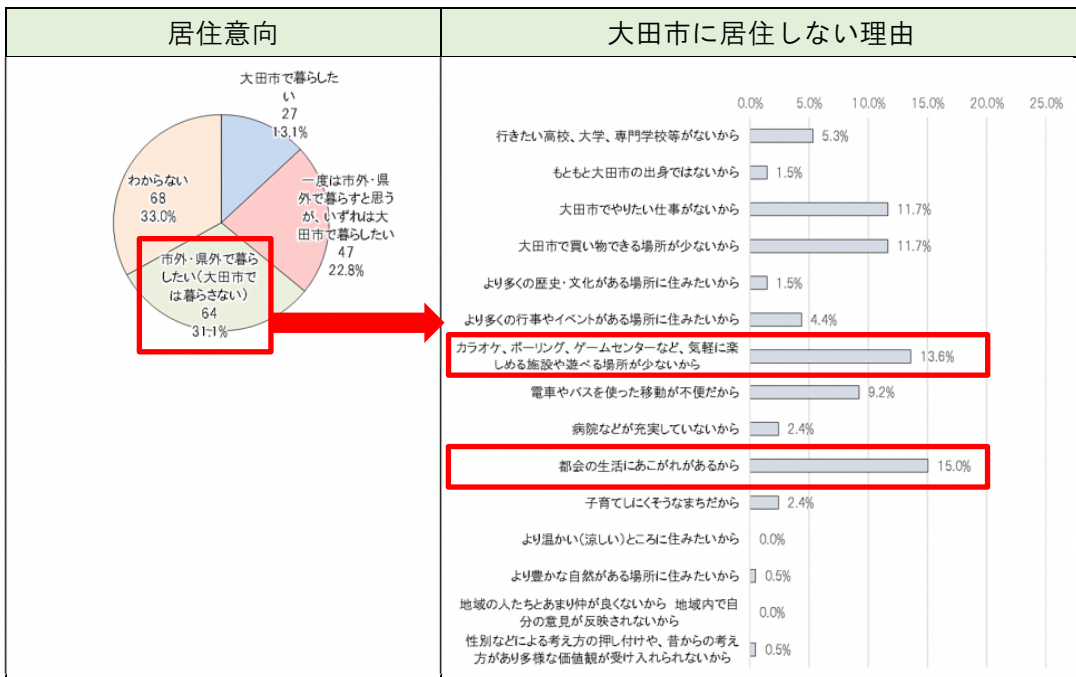
高校生の進学希望者は7割、就職希望者は1割となっている。



(3) 卒業後の進路、就職先について

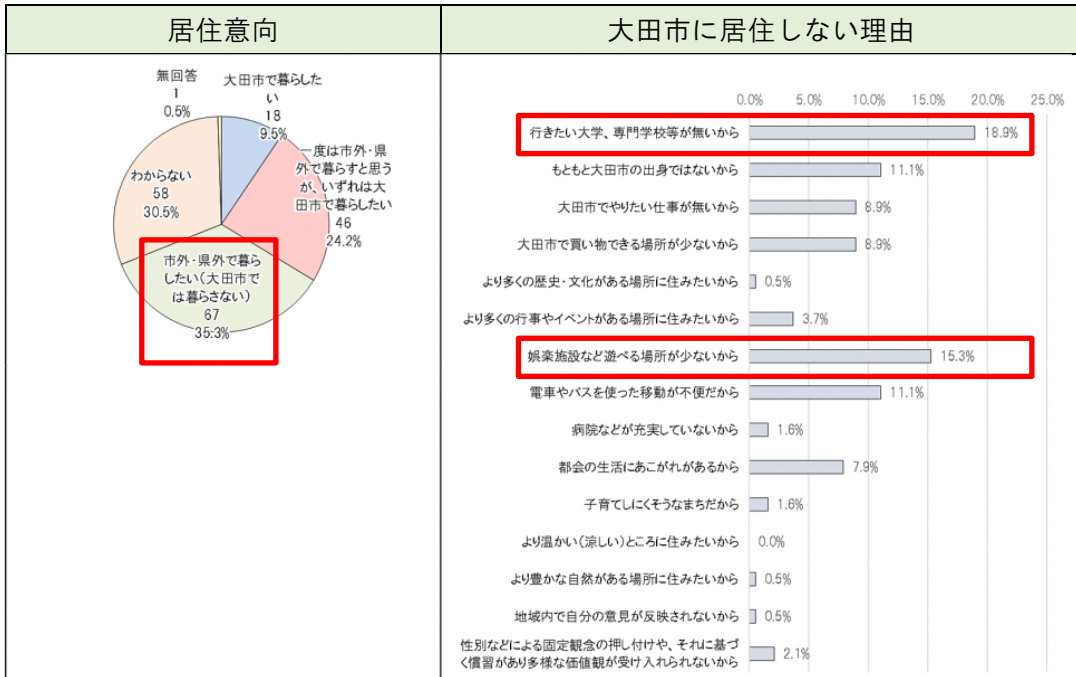
ア) 中学生

今後の居留意向について、約3割が大田市で暮らさないと回答しており、大田市で暮らすと回答した割合よりも高い。その理由としては、「都会の生活にあこがれがあるから」や「娯楽施設が近くに無い」といった意見が多くなっている。



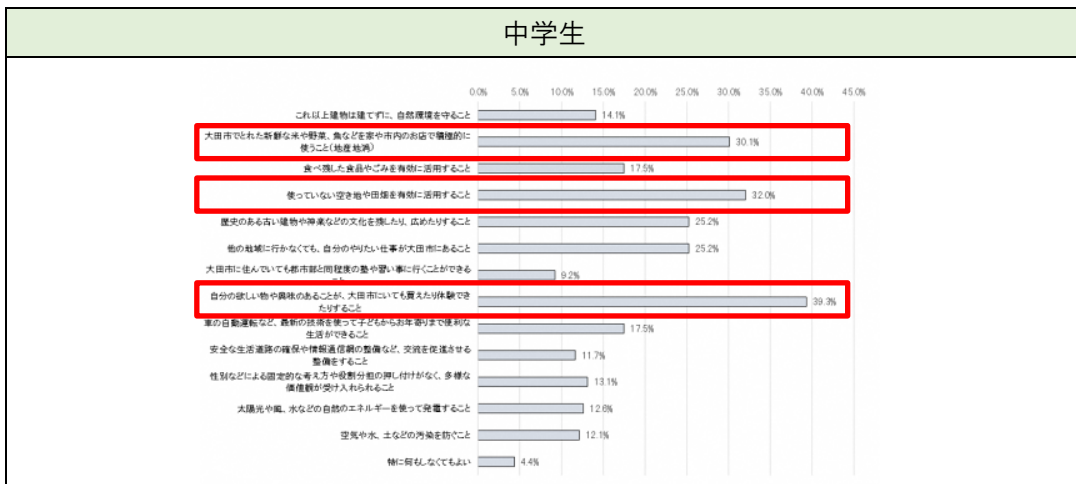
イ) 高校生

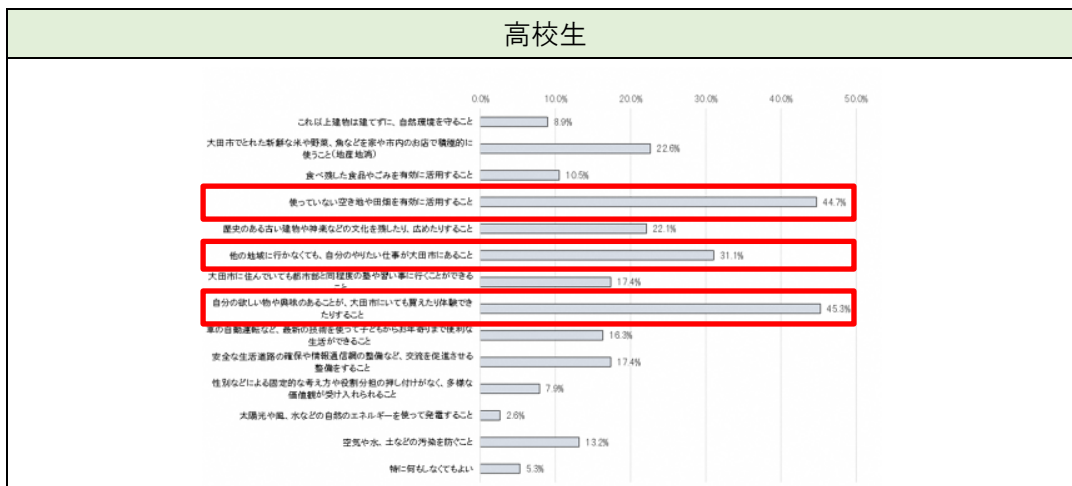
高校生についても、約 4 割が大田市で暮らさないと回答しており、大田市で暮らすと回答した割合よりも高い。その理由としては、「行きたい大学、専門学校等が無いから」が多く、次いで中学生と同じく「娯楽施設が近くに無い」といった意見が多くなっている。



(4) 大人になったあなたやあなたの子ども世代がこのまちで暮らし続けるためには、何が必要だと思うか

中学生・高校生ともに、買い物の利便性を求める声が多く、次いで、空き地や田畑の有効活用が多くなっているほか、高校生については、やりたい仕事が大田市にあることを望む声が多くなっている。





5. 市民・中高生アンケート調査結果のまとめ

アンケート調査を通じて、大田市が直面する人口動態の変化と都市機能の現状に関して重要な知見が得られた。特に、市内外からのUIターン者の背景や、子育てと仕事の両立、地域コミュニティへの参画、若者の地元に対する視点に関して前述の人口減少要因につながる示唆が得られた。また、都市機能に対する評価と市民が感じる不足点なども明らかとなり、今後の課題と改善への方向性につながる結果を得られた。

ライフステージからみた現状

- 回答の約半数近くがUIターン者となっており、人口は流動的となっている。
- ふたり親世帯|ターン者は結婚出産を機に来ており、独身世帯は転勤等のタイミングで来ている。
- パートナーとの出会いは、市内外ともに半数の割合であるが、大田市に住みながらパートナーを見つけた人も半数以上存在する。
- 子育てに関して、仕事と家庭の両立が難しい世帯も見受けられ、夫(男性)の3割は子育てで職場を休むことが出来ない状況にあるなど、男女差が存在している。
- 子育てに関する支援状況は、祖父母からの支援が大きく、居住関係が近いほど、その支援は手厚い。
- 特に経済的問題は、結婚期・子育て期の両方において意思決定に強く作用→所得確保と適切な支援。
- 高校生アンケートでは、大田市に愛着を持っているものの、将来の居住可能性には迷いも見られる。

都市機能からみた現状

- 大田市に不足している点として、都市娯楽機能、職場、交通の3つの要因が挙げられている。
- 中心部と郊外部で、上記3つの要素に対する評価の違いがあまり見受けられない。すなわち、大田市全体としての求心力が低い状態となっている。
- 都市機能の集積が弱いと、子育て世帯からは子どもが遊べる場所が少ない、若者から娯楽施設が少ないなどの声があり、近隣市町へ出かける方が多い。
- 一方で、大田市において自然と触れ合う場や機会、種々の社会施設を望む声も多い。

Ⅱ ヒアリング調査結果

1. 庁内関係部署へのヒアリング

(1) 目的

各施策の状況整理のため、庁内の関係部署へヒアリングを実施した。

(2) 実施概要

- ・ 10月17日(火) 11:00～ 学校教育課・学事魅力化推進室
13:00～ 子ども保育課・子ども家庭支援課
14:00～ まちづくり定住課
- ・ 10月18日(水) 10:00～ 産業企画課

(3) ヒアリング結果の要点

学校教育課・学事魅力化推進室
学力育成プロジェクトを進行中で、課題解決を図る力を身につける教育課程への対応や授業形態の改革、外国人児童への日本語指導強化を行っている。しかし、こういった取組をしていることに対する認知度不足や地域連携の課題がある。そのため、授業改善と教員意識改革、地域との連携強化を通じて、教育環境の向上を目指している。
子ども保育課・子ども家庭支援課
人口減少に対応する施策を検討中で、地域全体での子育て支援に注力している。移住促進や子育て支援の情報発信と支援策の整備、公的支援サービスの利用促進が課題である。子育て支援体制の強化と多様な教育支援策の検討を進めている。
まちづくり定住課
地域コミュニティの弱体化や若者の地域社会への組み込み不足、空き家問題が課題である。住民主体のまちづくりと空き家の有効活用を通じて、地域の再活性化を図っていく必要がある。
産業企画課
産業振興と人材育成を進めており、サテライトオフィスの設置支援や企業立地奨励金等の支援を行っている。しかし、施策の認知度が低いとともに、地域での求人と求職者のミスマッチが問題である。施策の認知度向上と企業と教育機関の連携を深め、地域に根差した人材育成を目指していく必要がある。

2. 関連団体へのヒアリング

(1) 目的

様々な分野で活動している大田市内の団体に、人口減少対策に関する取組みや課題、今後の在り方などについて意見を伺うために、各団体に関わる分野のテーマを中心にヒアリングを実施した。

また、地区の実態をより詳細に把握するために、全 27 地区の中から、人口動態の良い地域として大森地区、人口動態に課題のある地域として池田地区をそれぞれモデル地区として選定し、通常のヒアリングに加えて、地元関係図を作成した。

(2) 実施概要

- ・日時：2023 年 6 月から 2023 年 7 月にかけて実施
- ・実施地区：大田市内（8 地区、高校 2 校、子育てサークル 5 団体※）
※子育てサークルについては、簡単なアンケート用紙を配布し、後日回答頂く形を取った。
- ・主なヒアリング項目
 - 人口の増加減少要因
 - 地区の課題
 - 地域の組織・団体
 - 活動のスケジュール
 - 行政に求める施策や事業 等
- ・ヒアリング実施先
 - 【まちづくりセンター】
 - 大森まちづくりセンター（モデル地区：地元関係図も作成）
 - 祖式まちづくりセンター
 - 福波まちづくりセンター
 - 馬路まちづくりセンター
 - 大屋まちづくりセンター
 - 富山まちづくりセンター
 - 朝山まちづくりセンター
 - 池田まちづくりセンター（モデル地区：地元関係図も作成）
 - 【子育て教育関係者】
 - 大田高校
 - 邇摩高校
 - 子育てサークル

3. ヒアリング結果のまとめ

ヒアリング調査から、大田市の移住促進と地域活性化に向けた有益な示唆が得られた。多様な移住ルートが存在、出会いの場づくり、空き家活用の重要性、そして子どもたちが希望を持てる将来のライフプランを描くための取組など、4つのポイントとして整理した。これらの知見は、大田市が直面する課題への対応策を検討し、より良いまちづくりへの方向性を示すものである。

1. 多様な移住ルート：大田市へのアクセスチャネル
・移住定住サイトなどがからの流れ ・移住者が移住者を呼ぶ流れもある
2. 多様な出会いの場づくり
・地域食堂や砂浜でのコンサートなど、地域資源を活かした多様な場づくりができつつある ・今後より大田市内で若者や子育て世帯が集まれる場づくりを進めていく必要性がある
3. 移住定住の決め手の一つである空き家の活用
・いかに条件の良い空き家があるのかが移住の決め手に ・課題として実際に住める空き家はどの程度あるか、そしていかに空き家の流通を活性化させるかがポイント
4. 希望を持てる将来のライフプランを立てるために
・子どもたちがいかに自身の将来を描くのか、その力が問われている ・大田市の未来形まちづくりへ

Ⅲ 他自治体現状分析

(1) 目的

人口減少に関する取組として、大田市の状況を広く島根県内の15市町(隠岐を除く)を対象に取り組みされている施策を調査した。

また、併せて、大田市に参考になると考えられる先進的取組を行っている自治体として、兵庫県明石市、大分県豊後高田市の取組も併せて調査した。

(2) 県内15市町村(大田市も含む)の調査結果(一部)

大田市に隣接する飯南町や川本町、美郷町などを始めとして県内の多くの町では、保育料医療費、給食費などが無料となっている。

住宅補助に関する支援策も手厚く、飯南町では、町内在住者及びUIターン者等の世帯を対象に、住宅の整備に係る必要の一部補助を行うなど、移住定住に繋がる施策も展開している。

■他自治体の取組調査 2023年8月現在

調査自治体		飯南町	川本町	美郷町
基礎情報 (国総調査)	人口(R2)	4,577人	3,248人	4,355人
分野	保育料(0~2歳) ※副食費含む	無料	無料	無料
	保育料(3~5歳)			
	副食費(3~5歳)	無料	無料	無料
	医療費(未就学児) 自己負担額	無料	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円
	医療費(小学生) 自己負担額	無料	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円
	医療費(中学生) 自己負担額	無料	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円
	医療費(高校生) 自己負担額	無料	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	入院:助成対象外 入院外(通院・薬局等):助成対象外
	給食費(幼稚園)	不明	無料	無料
	給食費(小学校)	有料	有料	有料
	給食費(中学校)	有料	有料	有料
	ファミリーサポートセンター	有料	設置無し	設置無し
	病児保育	設置無し	設置無し	病児保育2か所 有料1日1,000円、1日1,500円
	通学支援	遠距離通学をする小中学生の通学に要する費用を補助	遠距離通学をする小中学生の通学に要する費用を補助	遠距離通学をする小中学生の通学に要する費用を補助
	学習支援 (公営塾等)	公営塾学習支援館 学校と連携しながら、きめ細やかな学習支援とキャリア教育の実施。高校生は月5,000円等。	英検助成 英語検定を受験する費用の全額を補助。 (同一級同年度内1回)	○公営塾の開設 中学生に向けて町内2か所で週2回、受講料無料の塾を開設。 ○美郷町ふるさと定住奨学金(給付型) 卒業後、美郷町への定住を条件に高校・大学・専門学校等の修学期間、奨学金を給付します。
子育て環境整備	—	—	—	
移住定住	住宅支援等 (住宅取得に関する補助を中心にピックアップ)	町内に在住者する人またはU・ターンする人および45歳以下の単身または夫婦若しくはそれらと同居する世帯に対して、住宅の新築に係る経費(100万円)、土地造成費(50万円)	定住される方が、町内に新築または中古住宅を購入される場合に、建築費や購入費用の一部を助成(最大200万円)	美郷町内に新築住宅を建設する際の費用の一部を補助(①転入(転入から2年以内):20万円 ②子供1人につき20万円(第3子まで) ※第4子:30万円、第5子以降:50万円 ③3世代同居:20万円 ④建築の町内事業者利用:50万円)
仕事	就職支援 (市町独自)	—	—	—
結婚・妊娠・出産	出産祝金 ※国の「出産・子育て応援交付金事業」と出産育児一時金は除く	新生児出産祝金:第1~2子は10万円、第3子以降は50万円	—	—

※医療費の欄について、慢性呼吸器疾患等16疾患に

(3) 先進的取組を行っている自治体の調査結果

以下、先進事例として兵庫県明石市と大分県豊後高田市の事例を紹介した。

ア) 兵庫県明石市の取組

5つの無償化と寄り添い支援を始めとした取組により成果を出してきた明石市。

■5つの無償化

- ・18歳までの医療費無料
- ・第2子以降の保育料無料
- ・中学校の給食費無料
- ・公共施設の遊び場無料
- ・おむつ定期便(0歳児見守り訪問)無料

■寄り添い支援

- ・養育費の立替払い
- ・子ども食堂を全ての小学校区で開催
- ・戸籍のない子どもの支援
- ・優生保護法被害者支援
- ・犯罪被害者支援・更生支援

■その他支援

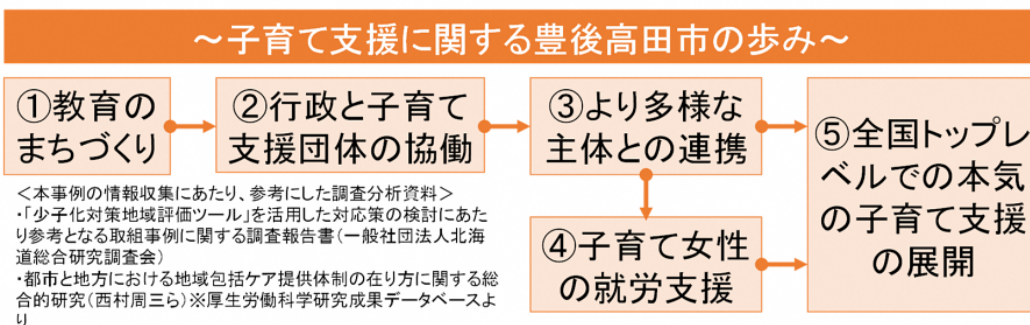
- ・本のまち
- ・同性パートナーシップ制度の導入(ファミリーシップ制度)

■住民自らの取組

- ・商店街のバリアフリー化



イ) 大分県豊後高田市の取組



IV 現行施策の効果検証と要因分析

(1) 目的

大田市の人口減少に関する各事業について、その達成状況や事務事業の実施状況等を的確に把握し、今後の施策立案につなげるために施策の効果検証を行った。

(2) 検証の対象事業一覧

以下に示す全 31 事業の達成状況と今後の方向性等について評価した。

	事業名	達成状況	今後の方向性
①	定住促進事業	Ⅲ.順調とはいえない	Ⅱ.維持
②	おおだ縁結びサポート事業	Ⅱ.やや順調	Ⅱ.維持
③	企業誘致推進事業	Ⅰ.順調	Ⅱ.維持
④	【R5 新規】 特定地域づくり事業協同組合支援事業	Ⅰ.順調	Ⅱ.維持
⑤	持続可能なまちづくり推進事業	Ⅲ.順調とはいえない	Ⅱ.維持
⑥	地域おこし協力隊員等受入れ事業	Ⅱ.やや順調	Ⅰ.拡大
⑦	産業人財育成・確保促進事業	Ⅱ.やや順調	Ⅱ.維持
⑧	【R5 新規】 サテライトオフィス等開設支援事業	Ⅰ.順調	Ⅰ.拡大
⑨	自営漁業者自立給付金交付事業	Ⅰ.順調	Ⅱ.維持
⑩	新規就農者総合対策事業	Ⅰ.順調	Ⅱ.維持
⑪	【R5 新規】 大田市関係人口拡大事業	Ⅰ.順調	Ⅱ.維持
⑫	母子健康包括支援事業	Ⅰ.順調	Ⅱ.維持
⑬	こんにちは赤ちゃん訪問事業	Ⅱ.やや順調	Ⅱ.維持
⑭	乳幼児等医療給付事業	Ⅰ.順調	Ⅱ.維持
⑮	保育所特別事業	Ⅰ.順調	Ⅱ.維持
⑯	障がい児保育事業補助	Ⅰ.順調	Ⅱ.維持
⑰	母子保健活動事業	Ⅰ.順調	Ⅱ.維持
⑱	産後ケア事業	Ⅰ.順調	Ⅱ.維持
⑲	【R5 新規】 出産・子育て応援事業	Ⅰ.順調	Ⅱ.維持
⑳	【R5 新規】 こども家庭総合支援拠点施設整備事業	Ⅱ.やや順調	Ⅰ.拡大
㉑	【R5 事業再編】 不妊・不育症治療バックアップ事業	Ⅰ.順調	Ⅱ.維持
㉒	地域子育て応援事業	Ⅱ.やや順調	Ⅱ.維持
㉓	山村留学推進事業		
㉔	子ども医療費助成事業	Ⅰ.順調	Ⅱ.維持
㉕	学校・家庭・地域の連携による教育支援事業		
㉖	放課後児童健全育成事業	Ⅱ.やや順調	Ⅰ.拡大
㉗	学力・教育力向上プロジェクト事業	Ⅰ.順調	Ⅰ.拡大
㉘	高校コンソーシアム運営支援事業	Ⅰ.順調	Ⅱ.維持
㉙	特別支援教育体制推進事業	Ⅱ.やや順調	Ⅰ.拡大
⑳	帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業	Ⅱ.やや順調	Ⅱ.維持
㉑	おおだ教育魅力化推進事業	Ⅰ.順調	Ⅱ.維持

V 【追加調査】世代をつなぎ、今後のより良い地域づくりに向けた一歩を踏み出すための条件整理（世代別期待・求められる行動について）

(1) 目的

第5回調査検討委員会において、ワークショップを通じて委員からの意見を集約し、地域活動や生活における各世代の役割や期待、世代間のギャップについて検討した。

(2) 検討結果

	子ども世代	若者・親世代	おじいちゃん・おばあちゃん世代
市全体	<p>地域の資源や魅力との触れ合い</p> <p>ふるさと教育などを通して大田市の資源に触れる</p> <p>子ども達に普段できない特別な体験をさせる</p> <p>学校・家でさせてもらえないこと</p> <p>地域の伝統</p> <p>地引き綱</p> <p>・お茶 ・いちご ・海/山遊び</p>	<p>まずは趣味・同年代の交流から</p> <p>きっかけづくり</p> <p>当委員会以外の人と出会っていき</p> <p>趣味でつながる</p> <p>気負わずゆるくはじめる</p> <p>止めずに続ける(負担にならない間隔で例えば2カ月に1回)</p> <p>形は変えてもOK</p> <p>子育て世帯が楽しめる環境づくり</p> <p>里帰り出産の母子に大田の保育・教育・暮らしを楽しんでもらう体験を</p>	<p>無理なく活動する</p> <p>無理強い</p> <p>義務感</p> <p>最初は役割を作らない(リーダー等)</p> <p>子育て世帯が安心して生活できる雰囲気づくり</p> <p>子育ての方法やカタチを否定しない</p>
各地域	<p>地域の中に子ども達が集える場所を取り戻す</p> <p>駄菓子屋</p> <p>子どもが田んぼで遊べる(勝手に)</p> <p>【付箋凡例】</p> <p>アイデア・期待</p> <p>課題・障害</p>	<p>若者世代ならではの地域活動への参画方法と留意点</p> <p>盆の帰省者に盆踊り実行委員会に入ってもらう(ZOOM参加可)</p> <p>NG:地域のであて職にPTAを多用しない</p> <p>若者世代による地域の魅力発信</p> <p>発信・見える化</p> <p>空気感を伝える!!</p> <p>若者視点からの地域資源掘り起こし・活用</p> <p>地域産物を使用した商品開発</p>	<p>地域の伝統文化の継承</p> <p>祭りや花火は絶やすな。</p> <p>祭りの継承</p> <p>大人世代自ら楽しむ姿を次世代にも見せる</p> <p>若者世代や大人世代が楽しんでいる姿をみせる。しかし、そういう行事はなくなっている</p> <p>気球を上げる! 大人世代が心に残ることをもう一度やる!</p> <p>自治会の活性化</p> <p>自地域の自治会活動の活性化</p> <p>子どもや若者の柔軟な受け入れ</p> <p>畑の開放(週末に若者が手伝ったり、子どもが収穫にきたり)</p>

子ども世代	期待	地域の歴史や文化・魅力に親しみ、地域への愛着心を深め、大田市に可能性を感じてもらう。
若者・親世代	期待	地域を元気づけ、若い視点で新たな価値を生み出す。
	求められる行動	地域活動に気軽に参加し、新しい魅力を見つけて共有・発信する。新しい方法で地域資源を活用する。
おじいちゃん・おばあちゃん世代	期待	誰もが安心して生活できる良い雰囲気をつくる。様々な世代が交流できる機会を増やす。
	求められる行動	伝統文化を大切にしつつ、地域の様々な活動を思いやりの心で支える。後世に伝える責任感と受け入れの姿勢を持つ。

第4章 人口減少対策に関する施策の検討

I 戦略の策定

人口減少対策に向けた今後の大田市として進むべき方向性についてまとめた。各種調査分析結果を踏まえ、次に示す2つの軸と4つの場ごとに現状と課題を整理し、これらを戦略の枠組みとして取りまとめた。

1. 2つの軸と4つの場の必要性

(1) ライフステージ軸について

子どもから大人に至るまで、それぞれの世代における役割や期待は様々である。そこで、これまでの調査結果から「子ども世代」「若者・親世代」「おじいちゃん・おばあちゃん世代」の3つの世代に分類し、ライフステージ軸を設定した。



(2) 地域・市全体軸について

人口減少は大田市で一様に生じているのではなく、地域によって人口動態が良い地区と悪い地区が混在している。このように地域ごとの課題と可能性に応じた取組が必要であることから、地域・市全体軸を設定した。

(3) 4つの場による整理

ア) 働く場

仕事は、その人の居住地寄らず様々な所にある。居住地から時間をかけて別の地区あるいは別の市町に働きに出ていることが、ヒアリング調査結果からも明らかになっている。よって、働く場は、市全体の区分として考えられる。若い人も含め多くの人は地域に紐づいているのではなく、居住地に関係なく仕事先に行っている。

イ) 地元の場

地元の場は、その地域に根差した産業として農林畜産業などがあり、広く地域の伝統や歴史などが紡がれていく場である。ここでの課題は多く、人口減少による担い手の減少や継業が困難であるなどの課題が山積している。

ウ) 居住の場

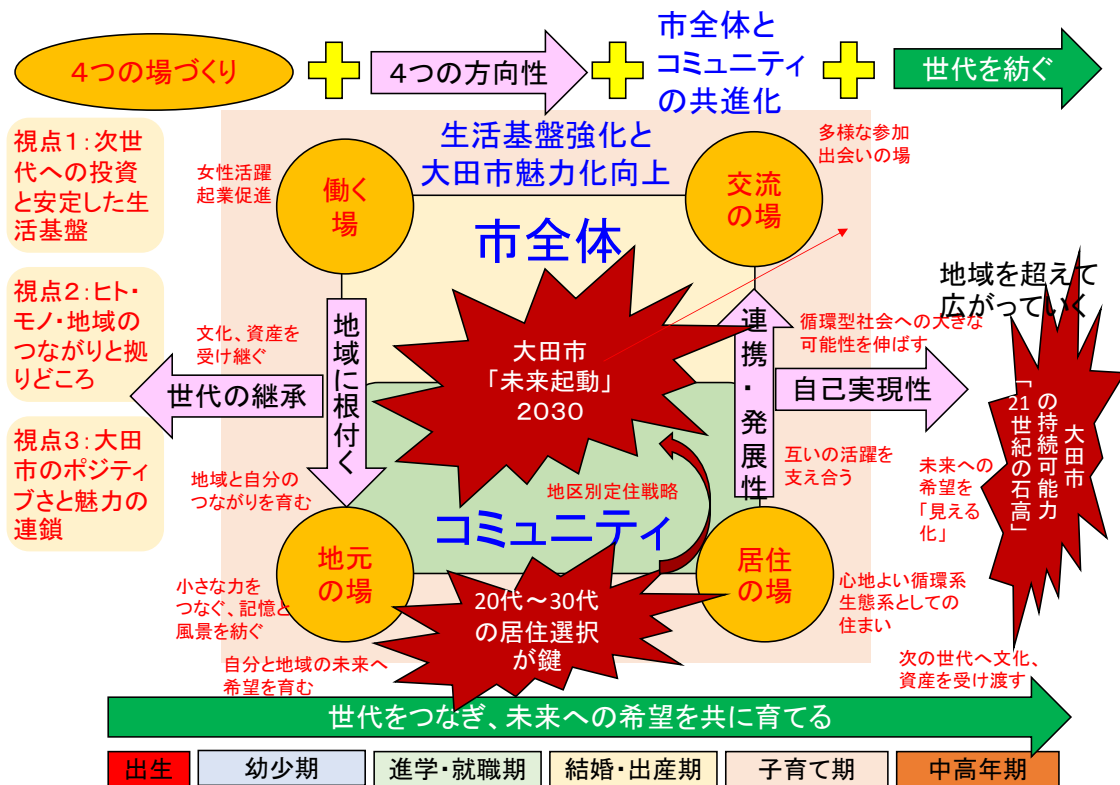
何らかの地域コミュニティの中で普段暮らしを営む中で、安心して生活できるような居住の場の形成が求められている。特に子育て世帯であれば、地域ぐるみで子を支え合うような環境が重要である。

エ) 交流の場

地域の枠を超えた、同世代や多様な世代との出会いと活動への参加を促進する場が望ましい。例えば、育児に関する情報交換を行ったり、独身の若者同士が出会う場があるなど、市全体としての交流の場づくりが求められている。

2. 大田市の戦略

以上のライフステージ軸と地域・市全体軸、4つの場づくりから導かれる方向性を整理した。最終的には、これらが地域・市全体としてコミュニティとして共進化していき、より世代を紡ぐ取組として広がっていくことを目指した枠組みとして以下にまとめた。



Ⅱ 既存施策のスクラップ&ビルドの検討、提言

(1) 目的

大田市の人口減少対策を検討する上で、行政施策の意義や目的などの有効性を確認し、時代の変化や社会ニーズに応じたものであるかを評価するために、地元天気図ワークショップという手法を用いて、全31事業についての評価を行った。

なお、スクラップ&ビルドの結果を受けた、具体的な提言については、次項の「Ⅲ具体的な施策検討・提言」に関する内容を参照されたい。

(2) 実施手法

- ・事業一覧表に掲載している事業について、事業の良し悪しを評価するマークとして「高気圧マーク」「低気圧マーク」、事業に対する認知度を図るものとして「知っているマーク」、分野横断での事業連携が図れているものあるいは連携できると良い事業同士については「前線マーク」を貼り付けた。

- ・人口減少対策に寄与していると思われる事業は「高気圧マーク」 ● **高**
- ・改善する必要がある事業は「低気圧マーク」 ● **低**
- ・知っている事業には「緑色マーク」 ●
- ・既により良い連携が図れていると思われる事業は「温暖前線マーク」 ▲▲▲
- ・連携が弱い（または強めたい）と思われる事業は「寒冷前線マーク」 ▲▲▲

(3) 結果（一部）

A班の発表

訪問されてもあまり悩みの解決にはならなかった。おばあちゃんが来られた。

同年代のお母さんと出会う・心配事の気軽な相談

幼小連携研修会が開催され、理科についても紹介されたが、子ども保育課管轄の保育所「幼児教育施設」全体で取り組むべき

大事ではあるが、他市と比べると支援は弱い

地域と学校との連携

学生と小さな子どもがふれ合いの場がお互いに良いと思う

もっと深堀、もっと強く、より強く

あまり経済的な支援を実感できていない

関係人口の増加

若者(女性)の働き場の創出

結婚につながる出会い

行政ではない(はびこ)。人々の頑張りが

Uターン者の確保

参加者の減少

若者とのつながり

[まとめ]

高気圧マークの多かった事業⇒幼少期における事業が注目
○定住促進事業 まちづくり定住課 25歳同窓会開催事業 (3つ)
○乳幼児等医療給付事業 市民課 (3つ)
○母子保健活動事業 子ども家庭支援課 乳幼児健康教室 (3つ)
○母子保健活動事業 子ども家庭支援課 思春期・赤ちゃん交流学习事業 (3つ)
低気圧マークの多かった事業⇒教育支援に関する事業が注目
○産業人財育成・確保促進事業 産業企画課 おおだで働こう！人財育成事業(3つ)
○定住促進事業 まちづくり定住課 25歳同窓会開催事業 (2つ)
○学力・教育力向上プロジェクト事業 学校教育課 (2つ)
○高校コンソーシアム運営支援事業 学校教育課 (2つ)
○おおだ教育魅力化推進事業 学校教育課 小・中学校ホームページ管理費 (2つ)
認知度シールの多かった事業
○母子健康包括支援事業 子ども家庭支援課 (7つ)
○定住促進事業 まちづくり定住課 25歳同窓会開催事業 (6つ)
○おおだ縁結びサポート事業 まちづくり定住課 全体 (6つ)
○乳幼児等医療給付事業 市民課 (6つ)
○山村留学推進事業 山村留学センター (6つ)
その他
○“移住定住と子育て”、“子育てと教育”など部門間での連携による合わせ技が必要。

Ⅲ 具体的な施策検討・提言

1. 検討の過程

(1) 目的

人口減少対策に必要な事業や取組みのアイデア出していただくとともに、市民・事業者と行政の役割分担を検討するために実施する。

(2) 実施内容

以下に示す検討の枠組みに沿ったテーマのアクションプランを検討した。

今までの流れと意見交換 <今回まで>

<前回まで>

データ分析

- ①20歳前後の流出超過、取り戻し弱が最大の人口減少・少子化要因 (特に女性)→中高生～20代への対策
- ②地区別で大きな人口動態の違い →地区別の目標設定や定住戦略が不可欠

ヒアリング&ワークショップ

- ①多様な定住チャンネルの重要性 ~移住者が移住者を呼ぶ
- ②多彩な出合いの場づくりの有効性 ~子ども食堂など若者世代が参集
- ③住宅確保が決め手となる ~地域ごとの空き家活用がポイント
- ④子ども・若者が希望を持てるライフプランを描くことが出来る仕掛け

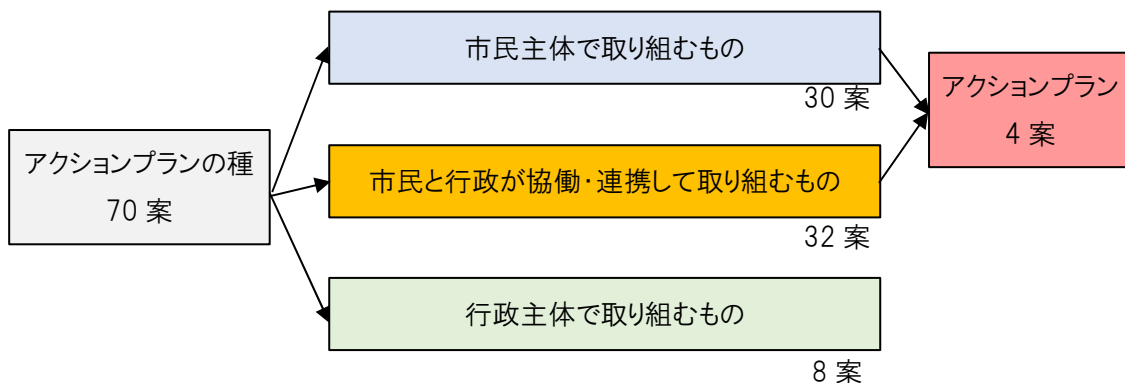
アンケート結果

<意見交換の枠組み>

見えてきた課題と方向性 「もっと人をつなぐ！」	市全体 ◎市民が主役 ○市民と行政が協働 □行政が条件整備	コミュニティ ◎市民が主役 ○市民と行政が協働 □行政が条件整備
夢の共有 大田市に、「夢」=可能性を感じて、次の世代が帰ってくるために出来ること！	(例えば) ●中高生と若手起業・継業家のリンク塾 ●2050年大田市未来環境ビジョン～先着1万名さま宣言	(例えば) ●中高生×大学生による地元学(魅力再発見) ●地区別定住戦略づくり(地域の魅力と底力を活かすビジョンづくりと定住目標、プラン)
場の創出 こんな楽しみ、出合い、子どもの体験・交流、仕事、支え合い、居住の場所をつくりたい！	(例えば) ●大田市の駅前、こんな広場を！(週末も大田で) ●高校に地産地消食堂	(例えば) ●コミュニティ&子育て広場づくり～地元&子ども食堂の輪
動の連鎖 こんな挑戦や共生の取り組みを起こし、つなげる人を増やしたい！	(例えば) ●起業継業ネットワーク ●定住&子育て支援員配置(施設、各地区)	(例えば) ●地域経営会社で資源活用&課題解決(空き家等) ●地区巡回型マルシェ

(3) 検討結果の概要

以下に示すように、最終的に全70のアクションプランの種が完成した。その後、市民主体及び市民行政協働の取組に分類したアクションプランの種の中から4事業を選定し、具体的な内容や取組体制を位置付けたアクションプランを作成した。



2. 検討の結果

[70のアクションプランの種の一覧]

通し番号	分野	範囲	テーマ	タイトル	市民主体で取り組むもの	市民と行政が協働・連携して取り組むもの	行政主体で取り組むもの
1	子ども子育て教育	市全体	夢の共有	(仮)空き家を活用した学習場所の提供		●	
2	子ども子育て教育	市全体	夢の共有	市独自の奨学金			●
3	子ども子育て教育	市全体	夢の共有	赤ちゃんふれあい体験		●	
4	子ども子育て教育	市全体	場の創出	ちびっこ広場(屋内)		●	
5	子ども子育て教育	市全体	場の創出	フリースポット	●		
6	子ども子育て教育	コミュニティ	場の創出	自治会こども若い者会	●		
7	子ども子育て教育	コミュニティ	場の創出	遊びに行こう!		●	
8	子ども子育て教育	コミュニティ	場の創出	おはなし会	●		
9	子ども子育て教育	コミュニティ	場の創出	子どもたちとゲーム大会	●		
10	子ども子育て教育	コミュニティ	場の創出	はなしをしよう!	●		
11	子ども子育て教育	市全体	場の創出	おおだF1会議		●	
12	子ども子育て教育	市全体	場の創出	子育てにやさしいまちづくり		●	
13	子ども子育て教育	コミュニティ	場の創出	夏休みのこども食堂	●		
14	子ども子育て教育	コミュニティ	場の創出	廃校をレジャー施設へ。			●
15	子ども子育て教育	コミュニティ	場の創出	裏山復活プロジェクト		●	
16	子ども子育て教育	市全体	場の創出	子ども・子育て・市民サロン		●	
17	子ども子育て教育	コミュニティ	場の創出	(子育てサロン)瑞風ひろば	●		
18	子ども子育て教育	コミュニティ	動の連鎖	神社寺子屋	●		
19	子ども子育て教育	コミュニティ	動の連鎖	親子で学ぶお金の学校	●		
20	子ども子育て教育	市全体	動の連鎖	学ぶ(あそぶ)保育士さん		●	
21	子ども子育て教育	コミュニティ	動の連鎖	チームメタボリクス	●		
22	子ども子育て教育	コミュニティ	動の連鎖	外国の方とキャッチボール		●	
23	子ども子育て教育	市全体	場の創出	高校に地産地消食堂		●	
24	子ども子育て教育	コミュニティ	場の創出	コミュニティ&子育て広場づくり～地元&子ども食堂の輪	●		
25	子ども子育て教育	市全体	動の連鎖	定住&子育て支援員配置			●
26	地域資源	市全体	夢の共有	修学旅行で大田の自慢			●
27	地域資源	コミュニティ	夢の共有	石見神楽教室	●		
28	地域資源	市全体	夢の共有	中高生地域ポイントゲーム		●	
29	地域資源	コミュニティ	夢の共有	地域の写真展	●		
30	地域資源	市全体	場の創出	キャンプ婚活	●		
31	地域資源	市全体	場の創出	マイ農園で野菜を育てよう!		●	
32	地域資源	市全体	場の創出	キャンプ	●		
33	地域資源	市全体	場の創出	自然体験	●		
34	地域資源	市全体	場の創出	郷土料理を食べよう		●	
35	地域資源	市全体	場の創出	月1神楽の日(名称募集:神楽のまちおおだ)	●		

通し番号	分野	範囲	テーマ	タイトル	市民主体で取組むもの	市民と行政が協働・連携して取組むもの	行政主体で取組むもの
36	地域資源	市全体	場の創出	海の広場、山の広場の設置	●		
37	地域資源	コミュニティ	場の創出	レンタル畑、空き地を畑へ		●	
38	地域資源	コミュニティ	場の創出	月1マルシェ まちセン	●		
39	地域資源	市全体	場の創出	地域資源・活用サークル	●		
40	地域資源	市全体	場の創出	不便を楽しむ	●		
41	地域資源	コミュニティ	場の創出	SUP海岸めぐりツアー		●	
42	地域資源	コミュニティ	場の創出	温泉モーニング	●		
43	地域資源	コミュニティ	場の創出	大田市そば茶めぐり	●		
44	地域資源	市全体	夢の共有	2050年大田市未来環境ビジョン〜先着1万名さま宣言			●
45	地域資源	コミュニティ	夢の共有	中高生×大学生による地元学		●	
46	地域資源	コミュニティ	夢の共有	地区別定住戦略づくり			●
47	地域資源	コミュニティ	動の連鎖	地区巡回型マルシェ	●		
48	地域資源	コミュニティ	場の創出	廃校を利活用したお泊り会		●	
49	交流・出会いの場	市全体	夢の共有	中高生と大人たちのカタリバ		●	
50	交流・出会いの場	市全体	夢の共有	おおだ版しゃべり場		●	
51	交流・出会いの場	市全体	夢の共有	令和の時代に未来と拓く生き方		●	
52	交流・出会いの場	コミュニティ	場の創出	石見銀山(店)集結の場	●		
53	交流・出会いの場	市全体	夢の共有	大高女子会 遷摩高校女子会		●	
54	交流・出会いの場	コミュニティ	場の創出	みんなで日本を応援しよう。	●		
55	交流・出会いの場	市全体	場の創出	市民みんなの給食の日	●		
56	交流・出会いの場	市全体	場の創出	学ぶ＝遊ぶ＝出会う		●	
57	交流・出会いの場	市全体	場の創出	25歳同窓会地ビールカンパイ		●	
58	交流・出会いの場	市全体	動の連鎖	移住者メンター・メンティー制度		●	
59	交流・出会いの場	市全体	動の連鎖	パワフルなヒト育成塾(アフター会議)		●	
60	交流・出会いの場	市全体	場の創出	大田市の駅前、こんな広場を！(週末も大田で)			●
61	交流・出会いの場	市全体	動の連鎖	結婚支援課の創設			●
62	交流・出会いの場	市全体	場の創出	フリースペース	●		
63	交流・出会いの場	市全体	動の連鎖	大型イベント・セミナー	●		
64	空き家活用	コミュニティ	夢の共有	空き家活用でシェアオフィス、コワーキングスペース		●	
65	空き家活用	コミュニティ	場の創出	空き家を自由にリノベ		●	
66	空き家活用	コミュニティ	場の創出	日曜大工教室(リフォーム)	●		
67	空き家活用	コミュニティ	場の創出	空き家等解体ワークショップ		●	
68	起業創業	市全体	夢の共有	中高生と若手起業・継業家のリンク塾		●	
69	起業創業	市全体	動の連鎖	起業継業ネットワーク		●	
70	起業創業	コミュニティ	動の連鎖	地域経営会社で資源活用&課題解決		●	

第5章 各種協議について

I 調査検討委員会

1. 委員名簿

	分野	所属機関	委員氏名
1	有識者	公立大学法人島根県立大学 講師	村岡 詩織
2	保育所関係者	大田市保育研究会 副会長（あゆみ保育園 園長）	海原 泉
3	学校教育関係者	大田市校長会 会長（大田市立第一中学校 校長）	和田 美佐
4	子育て支援団体	大田市子育て支援団体連絡会 会長 （森のどんぐりくらぶ 代表）	松場 奈緒子
5	労働者代表	連合島根西部地域協議会大田地区会議 （帝人コードレ労働組合 組合員）	尾崎 楓
6	子育て当事者	大田市青年協議会 会長（JAしまね石見銀山青年連盟）	渡邊 徹
7	子育て当事者	保育園保護者会（あゆみ保育園父母の会）	中村 沙也加
8	子育て当事者	大田市立公立幼稚園PTA 連合会 会長 （大田市立大田幼稚園PTA 会長）	尾原 智貴
9	子育て当事者	大田市PTA 連合会 会長（大田市立大森小学校 PTA 会長）	小野寺 久美子
10	結婚支援	大田はぴこ会 会長	平田 久美子
11	女性政策	公益財団法人しまね女性センター	漆谷 佑美子
12	公募委員		宮里 陽子
13	公募委員		壺倉 祐磨

2. 協議の経過

回	日時	テーマ	主な議論
1	6/19	人生グラフの作成と人口動態の共有	現状の把握
2	7/31	ヒアリング調査結果の共有と行政施策天気図 ワークショップ	現状の把握、行政施策評価
3	10/27	アンケート調査結果の共有とアクションプランの 検討	現状の把握、対策の検討
4	12/19	アクションプランの具体化と次なる一歩を踏み 出すために	対策の検討、提言
5	2/19		

II 庁内連絡会議

1. 委員名簿

	課名	業務	人口減少対策との関連	委員氏名
1	政策企画課	・事務局		田中課長
2	まちづくり定住課	・定住促進、空家の利活用 ・出会いの場創出 ・結婚支援	・転入増加、 転入者の住まい ・出生数増へ	梶野課長
3	都市計画課	・市営住宅	・住まい	石田課長
4	産業企画課	・企業誘致、産業支援 ・事業所支援、労働者福祉	・雇用創出、雇用拡大、 所得拡大 ・労働者福利厚生	森安課長
5	子ども家庭支援課	・母子保健	・妊産婦支援、出産支援 ・乳幼児支援、発達支援	安田課長
6	子ども保育課	・子育て支援施策、保育園	・子育て支援	中村課長
7	学校教育課	・学校運営、教育の魅力化	・学校・家庭・地域連携 ・ふるさと教育、 市内高校進学	川津課長

2. 協議の経過

回	日時	テーマ	主な議論
1	5/24	本事業の取組方針・スケジュール 人口分析等の共有 人口減少対策に関する大田市の事業について 今後の調査等に関する方向性について	人口動態に関する意見交換 イチオシの事業に関する共有
2	11/7	各種調査結果の振り返り アクションプランの実現に向けた方向性の検討	アクションプランに対する今後の方向性についての検討
3	11/21	各種調査結果の振り返り アクションプランの実現に向けた支援体制に関する検討ワークショップ	アクションプランの検討

第6章 議員・職員研修及び市民フォーラムについて

I 研修会

本事業によって明らかになった本市の課題や方向性について、議員及び職員への意識啓発を目的とした報告会を実施した。

(1) 日時

- ・職員研修会：2023年11月21日13時30分～15時
- ・議員研修会：2023年12月21日10時～11時30分

(2) 報告内容

1. 人口シミュレーション～大田市全体と他自治体比較
2. 地区別人口分析と現場ヒアリング
3. 各種アンケート調査結果（ハイライト版）
4. 大田市内外の取組事例

(3) 主な意見等

●人口動態

- ・日本全体での人口の取り合いになっているのではないかと。
- ・地区別人口動態はかなり異なっていることが分かった。大田市のような魅力ある地域が独自性を出していく必要がある。

●空き家活用と移住定住支援

- ・市外から実際に移住された方の例を聞くことができ、大田市でも空き家の活用による移住定住の流れがあることを知ることができた。
- ・移住者が入ってきている地域では、何らかの形で移住者をサポートする仕組みがあり、このことは他地域からの移住を促し、地域経済やコミュニティの活性化につながっていることが分かった。

●市外進学問題への対応

- ・若者の市外への進学の流れを改善するというよりは、大田市に様々な可能性があることを若者に伝え、大田市に戻ってくることを促していくことが重要である。

Ⅱ 市民フォーラム（大田市未来展望フォーラム）

1. 開催概要

（1）目的

人口減少対策事業において実施した各種調査分析結果及び大田市の今後の方向性についてを市民に伝え、今後の取組の参考としていただくことを目的に市民フォーラムを開催した。

（2）開催日時/場所

- ・日時 2024年3月30日 13:30～16:00
- ・場所 島根県立男女共同参画センター あすてらす

（3）実施内容

地区別人口分析結果ポスター作製、当日の配布資料の作成、会の運営支援を行った。

（4）当日の流れ

13:30 開会 事業概要等の説明

13:40 第一部 調査分析結果の報告

- ・大田市の人口推計結果等について
- ・各種アンケート調査結果について
- ・全国の事例紹介
- ・質疑応答

14:15 休憩

14:25 第二部 調査検討委員会の報告

- ・委員会内での主な意見とその集約結果
- ・アクションプランの提案

15:00 第三部 パネルディスカッション

- ・①大田市の人口減少の要因とその課題
- ・②大田市全体で実践する取組みとその戦略
- ・③大田市全体及び各地元で実践する取組とその戦略
- ・④未来に向けての提言

15:55 閉会 挨拶

16:00 終了

2. 開催の様子

(1) 第一部 調査分析結果の報告

ア) 登壇者

- ・一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩

イ) 講演項目

- ・人口シミュレーション～大田市全体と他自治体比較
- ・地区別人口分析と現場ヒアリング
- ・各種アンケート調査結果（ハイライト版）
- ・全国の関連事例紹介



(2) 第二部 調査検討委員会の報告

ア) 登壇者

- ・村岡座長（調査検討委員会委員長）
- ・尾崎委員（調査検討委員会委員）
- ・尾原委員（調査検討委員会委員）
- ・松場委員（調査検討委員会委員）
- ・宮里委員（調査検討委員会委員）
- ・野村研究員（持続地域総研）

イ) 発表項目

- ・委員会内での主な意見とその集約結果
- ・アクションプラン「子育て世代にやさしいまちづくり」
- ・アクションプラン「地域資源活用サークルで男女の出会い創出」
- ・アクションプラン「地区巡回型マルシェ」
- ・アクションプラン「中高生と若手起業継業家のリンク塾」
- ・第二部のまとめ



(3) 第三部 パネルディスカッション

ア) 登壇者

- ・モデレーター（進行役）：藤山所長（持続地域総研）
- ・尾原委員（調査検討委員会委員）
- ・松場委員（調査検討委員会委員）
- ・笠松 奈々氏（島根県立瀬摩高等学校 2 年生）⇒現役高校生の立場として、2 人 1 組で参加。
- ・田中 瑠一氏（島根県立瀬摩高等学校 2 年生）⇒笠松氏と同様。
- ・安食 賢一氏（I ターンの立場として参加 : and people）
- ・村岡座長（調査検討委員会委員長）



イ) テーマに対する回答（キーワード）

回答者	①大田市の人口減少の要因とその課題	②大田市全体あるいは各地元で実践する取組とその戦略	③大田市の価値と魅力の再発見・共有	④未来に向けての提言
尾原委員	地域への愛着	みんな家族（写真展とか）	近さ	愉
松場委員	ナナメの関係が減少	チャレンジする大人の背中	旅人を受け入れる心	誇
高校生	高校生の流出	不便解消	大森町の町	未
安食氏	魅力の伝え方	つながりネットワークづくり	宝が眠っている	発
村岡座長	思い切り	大田を使い倒す	旧+新	個



第7章 政策提言

I 地域診断に関する具体提案

1. 継続的な人口診断の必要性

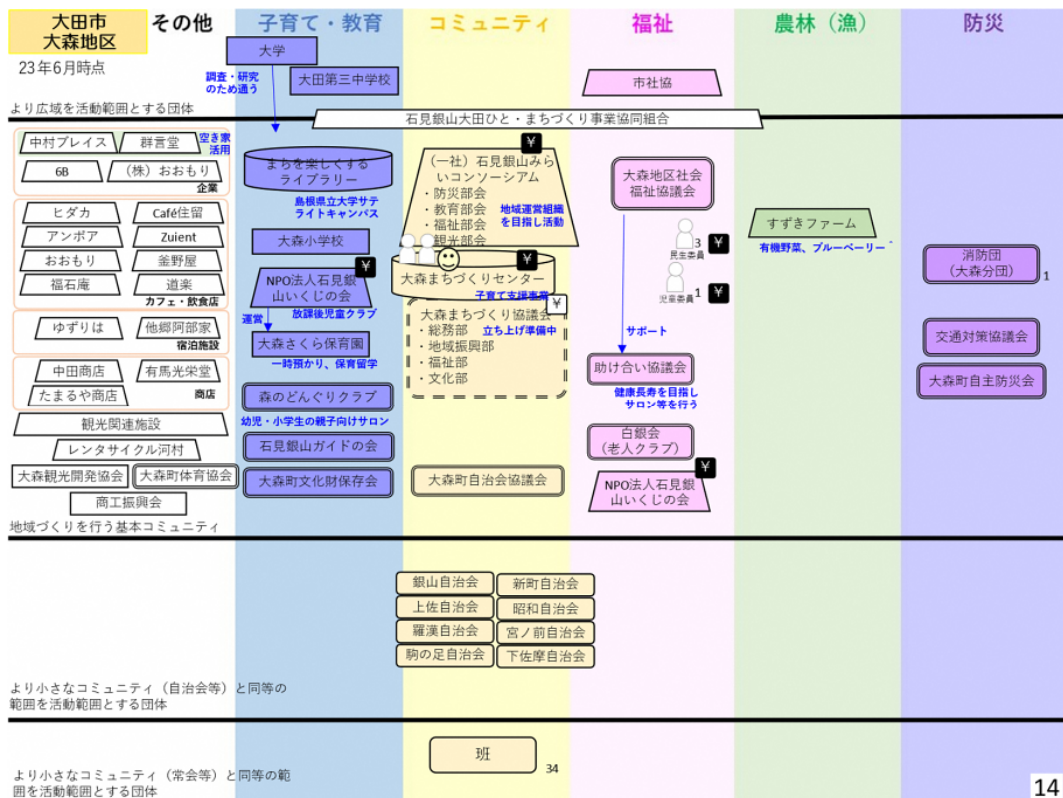
本事業で実施した人口分析によって人口減少の要因が明らかになったとともに、各地区の人口分析を行ったことで、現在の状況が人口維持の観点から良い状況なのか、あるいは課題のある状況なのかが数字によって具体的なものとなった。今後、各地区が展開する様々な取組に対しての手応えを地域自ら実感し、地域内で共有するためにも、継続的な人口診断を提案する。

2. 地域構造の診断の必要性

人口診断と並んで重要なのが、地域の構造的な診断である。地域の人口増減の背景を深く理解するためにも、本事業でも実施した「地元関係図」の作成を提案する。

地元関係図の作成は、地域内の組織やその連携を可視化し、地域の現状や課題を明確に把握するのに役立つものとなっている。また、その背景にある仕組みを理解することで、私たちが住む地域の発展に向けた戦略を構造的に表現することが可能となる。更に、他地域と比較することで、互いの地域構造の把握が容易となり地域同士の学び合いを促進することにもつながる。

[大森地区の地元関係図]



Ⅱ 持続可能な大田市の実現に向けた具体提案

1. 女性の起業、定住支援

アンケートやヒアリング結果及び調査検討委員会において議論されたように、20代～30代の女性を含む若者世代が大田市に戻ってきたいと思える環境づくりが必要である。

そこで、三次市のように、女性起業家の社会的認知度を高めるとともに、多くの女性の起業を支援する取組が参考になる。

[みよしアントレーヌの取組]

広島県三次市
女性活躍プラットフォーム
(起業支援センター)

専門的な相談や仲間づくりに対応。子連れにも優しい空間づくり。



2. 地区同士で学び合い、進化する「リーグ戦」方式を

地域別人口分析の結果などを見ると、次世代の定住の実現が待ったなしで求められている。一方で、地域によって人口の動態は様々であることから、地域の特性に応じた定住活動が実施されることが不可欠である。そこで、地区ごとの孤軍奮闘に終わらないよう、各地区の取組の成果と課題を共有する「リーグ戦」方式による取組方式を提案する。

宮崎県美郷町では、地区別戦略と題して、各地区がお互いに学び合い、全体としてより良い地域にするための戦略づくりを始めているところであり、大田市においても参考いただきたい事例となっている。

[宮崎県美郷町の取組]

24地区の色&漢字を揃えて、多彩な美郷町の魅力を発信！



3. 地元学による愛着の醸成

アンケート調査結果から明らかになった通り、大田市には豊富な地域資源が存在しているにもかかわらず、大田市の強みや魅力としての自己評価が低い傾向にあることが明らかとなっている。地元住民、特に未来を担う若者世代に大田市への愛着を深めてもらい、彼らが大田市へ戻ってくることを望むような、魅力ある体験などを通じて誇りや愛着を醸成することが急務である。そこで、地域の魅力を再発見し、大田市民の自己肯定感を高める仕掛けとして、当研究所が全国で展開する「地元学」の実施をお勧めしたい。

現地案内人(地域住民)から知恵や技、想いを伺う



4. 安心して子育てできる環境づくり

第5回調査検討委員会において明らかとなったように、子育て世帯も含めた多様な世代が地域で安心して生活できる雰囲気づくりと具体的な行動が求められている。この点に関して、島根県益田市真砂地区の取組が参考になる。真砂地区は、人口減少をはじめとする中山間地域特有の課題を抱えつつも、地域の生活基盤である農業を活かした食育活動の推進や、住民を巻き込んだ里山保育などに取り組む地区である。里山保育においては、子どもたちが地域の人々と積極的に交流することで、保育所の中だけに留まらない地域全体での保育を実現している。

[益田市真砂地区の取組]



真砂の里山保育とは？

地域全部が園庭 地域住民みんなが保育士

5. 地区を横断した子育てのネットワークづくり

地域のよりきめ細やかなニーズに対応するため、子育て分野に特化した地域横断的なネットワークを形成することも有効である。これについて益田市の取組が参考になる。紹介したい。益田市では、各地区の公民館が事務局として、「つろうて子育て協議会」の立ち上げており、地域の大人たちが学校に頼るだけでなく、地域が一丸となって子どもたちの成長を支えるための活動に取り組んでいる。

[子どもの体験活動]



6. 大田市としての都市の求心力の向上：駅前複合施設の整備

大田市では、「おおだ子育てにかかる総合支援拠点施設（仮称）」の整備を進めているが、アンケート調査結果からも、大田市の求心力が弱く、市民が買い物や子どもを遊ばせるために出雲市など近隣市町に足を運んでいる現状が明らかになっている。

これについて兵庫県明石市の取組が参考になる。明石市では「あかしこども広場」という複合施設において妊娠期から中高生ままでの幅広い年齢層を対象とした地域での子育て支援を目的とし、子育て支援センターや室内遊び場が無料で利用できるほか、中高生向けの交流スペースや多目的ホールも併設されている事例である。

[明石市の取組]



7. 空き家の活用促進

地域の人口維持と活性化のためには、空き家の活用が今後の重要な課題の一つであるが、地区内で空き家バンクに登録されている空き家がなく、移住者を確保することが困難な状況となっている地区も見受けられる。そのため、未活用の空き家をどのように活用していくかの仕組み作りが求められている。

この問題に対する一つの解決策として、空き家の「サブリース」方式を紹介する。サブリース方式は所有者と移住者の間に自治体やまちづくり協議会等が入り、リスクヘッジをした上で貸し出し・借り受けができるという取組である。

実際に鳥取市鹿野地区にあるまちづくり協議会が上記のような仕組みで運用している。

[鳥取市鹿野地区の取組]

NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会 (鳥取県鳥取市)

概要 (H13.10 法人設立)

平成6年から取り組み始めた街なみ環境整備を契機として、平成13年10月にそれぞれで活動していた多くの住民グループが集まり、「いんしゅう鹿野まちづくり協議会」が設立された。空き家活用をはじめとして、様々な活動に取り組んでいる。

取組のPoint

空き家のサブリース事業
 空き家バンクに登録されている空き家は、多くは利用が難しい状態にある。この問題を解決するために、空き家をサブリース方式で活用している。空き家をサブリース方式で活用することで、空き家の活用が促進されている。

主な取組

- 空き家バンク
- 空き家バンク事業
- 空き家バンク事業
- 空き家バンク事業
- 空き家バンク事業

週末だけのまちのみせ

鹿野市内の空き家・空きスペースを活用して、飲食や工芸品などが立ち並ぶイベント、地域活性化に寄与している。

[サブリース事業で運用する住宅]



8. まちづくりセンターの活用

大田市は各 27 地区にまちづくりセンターを設置し、地域活動を支援しているが、これらのセンターを地域活動の中核拠点としての役割をさらに強化することが求められている。具体的にはこれらのセンターが中心となって、今回提案した定住促進戦略や地域全体での子育て支援などに取組ことが選択肢の一つとして考えられる。

このように、まちづくりセンターが分野横断的な組織として地域の中心的役割を果たすことが改めて求められている。

9. 地域経営会社の設立へ

近年、全国の中山間地域では、さまざまな分野を横断して事業を展開する「地域経営会社」の設立事例が増加している。この「地域経営会社」とは、地域の住民が主体となり、地域の発展を目指す法人組織である。

今後、自ら自走できる地域づくりを進めていくためにも地域の組織の法人化も視野に入れておく必要がある。

これについて、島根県邑南町出羽地区の取組が参考になる。出羽地区では、地区内の 12 集落の広域連携を契機として、地区全体として営農や空き家活用を展開する事業主体として、住民有志の出資により地域経営会社として合同会社が設立されている。

[邑南町出羽地区の取組]

出羽自治会 (出羽公民館エリア)

合同会社 出羽

自治会の機能だけでは難しい、収益事業、空き家対策、産業等について、機動的に対応できる実働部隊として 2013年に設立。資本金539万円 出資社員17名(設立時6万円、6名)

経営部 (日田、三本松、山田、渡原、後谷、出羽、後大庭、吉田、大林)

生活部

交遊部

産業部

農業部門
 農地集積32ha
 放棄地活用
 新規就農支援

定住部門
 空き家活用
 (修繕、賃貸)
 起業支援

定住の窓口機能も併設

*今年、2代目就任

起業支援でバン屋もオープン

令和5年度

大田市総合的な人口減少対策事業
少子化対策に係る調査研究等業務 【概要版】

発行年月：令和6年3月

発行：一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所

〒699-3671 島根県益田市津田町 1401